

平成**31**年度（令和元年度）
全国学力・学習状況調査

報告書

児童生徒一人一人の学力・学習状況に
応じた学習指導の改善・充実に向けて

小学校 国語

令和元年 7月
文部科学省 国立教育政策研究所

目 次

1. 調査の概要	1
(1) 調査の目的	2
(2) 調査の対象とする児童生徒	2
(3) 調査事項及び手法	2
(4) 調査の方式	3
(5) 調査日時	3
(6) 中学校の英語「話すこと」調査にかかる特例的な措置に伴う対応に関して	3
(7) 集計児童生徒・学校数	4
(8) 調査結果の解釈等に関する留意事項	6
2. 教科に関する調査の結果（概要）	7
(1) 調査問題の内容、課題等、指導改善のポイント	8
(2) 集計結果（正答等の状況）	10
(3) 地域の規模等の状況	12
(4) 都道府県・指定都市の状況	12
(5) 教育委員会の状況	13
(6) 学校の状況	13
(7) 国・公・私立学校の状況	14
3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題	15
(1) 「3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題」の見方	16
(2) 小学校 国語	19
① 調べたことを報告する文章を書く（「公衆電話」）	20
② 疑問に思ったことを調べ、紹介し合う（「食べ物の保存」）	38
③ 地域で活躍する人を紹介する（量職人へのインタビュー）	48

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象とする児童生徒

【小学校調査】

小学校第6学年，義務教育学校前期課程第6学年，特別支援学校小学部第6学年

【中学校調査】

中学校第3学年，義務教育学校後期課程第3学年，
中等教育学校前期課程第3学年，特別支援学校中学部第3学年

(3) 調査事項及び手法

① 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査〔国語，算数・数学，英語〕

国語，算数・数学，英語はそれぞれ次の(ア)と(イ)を一体的に出題。

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

(イ) 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

英語においては，「聞くこと」，「読むこと」，「話すこと」，「書くこと」に関する問題を出題。

※調査問題は現行の学習指導要領（平成20年告示）に示された目標及び内容等に基づいて作成。

イ 質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。本年度の主な調査項目は以下のとおり。

- ・挑戦心，達成感，規範意識，自己有用感等
- ・部活動に関する状況
- ・ICTを活用した学習状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・学習に対する興味・関心や授業の理解度等

② 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

本年度の主な調査項目は以下のとおり。

- ・挑戦心，達成感，規範意識，自己有用感等
- ・カリキュラム・マネジメントなど，学校運営に関する取組状況
- ・教職員の資質能力の向上
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・各教科の指導方法

※調査項目は毎年度文部科学省において決定。

※全国学力・学習状況調査の開始当初（平成19年度）と比べて質問紙調査の質問項目数が増加し，平成30年度より，毎年調査する項目と数年おきに調査する項目を分別し，質問項目数を選定。

(4) 調査の方式
悉皆調査

(5) 調査日時
平成 31 年 4 月 18 日 (木)

【小学校調査】

1 時限目	2 時限目	
国語 (45 分)	算数 (45 分)	児童質問紙 (20～40 分程度)

【中学校調査】(例：6 学級の場合)

1 時限目	2 時限目	3 時限目	4 時限目	5 時限目	6 時限目
国語 (50 分)	数学 (50 分)	英語 「聞くこと」 「読むこと」 「書くこと」 (45 分)	生徒質問紙 (20～45 分程度) 等	英語 「話すこと」 (1 組, 2 組, 3 組)	英語 「話すこと」 (4 組, 5 組, 6 組)

<補足>

※「話すこと」調査の所要時間は、1 学級当たり 5 分（準備や移動に要する時間を含み 15 分）程度。
※原則として、同一学級の生徒を一斉に、かつ、調査対象学年の生徒全員が 3 単位時間以内で調査を行う。（学級規模等により「話すこと」調査の所要時間が 5、6 時限目で収まらない場合は、4 時限目も「話すこと」調査の実施に充てることができる。）

(6) 中学校の英語「話すこと」調査にかかる特例的な措置に伴う対応に関して
実施要領 7. (3) のとおり、英語の調査結果としては、「聞くこと」、「読むこと」、
「書くこと」の合計を集計。

【抜粋】平成 31 年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（平成 30 年 12 月 14 日付）

7. 中学校の英語のうち、「話すこと」に関する問題の実施にかかる特例的な措置

英語「話すこと」に関する問題は、初めて各学校のコンピュータ教室等の PC 端末等を活用し、音声録音方式で実施するものであり、各学校の ICT 環境が様々であることから、平成 31 年度に限り、特例的な措置として、以下のとおり、取り扱うこととする。

(1) 「話すこと」に関する問題については、設置管理者が各学校の ICT 環境の整備状況を把握し、各学校の状況を十分踏まえた上で、検討し、設置管理者の判断により学校単位で「話すこと」に関する問題を実施しないこととすることができる。

(2) 「話すこと」に関する問題の実施状況については、調査実施後に文部科学省において確認の上、実施校の全国総数のみを公表する。

(3) 中学校英語調査の結果については、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計する。また、「話すこと」に関する問題の結果については、全国の平均正答数及び平均正答率を別に集計して「参考値」として公表することとし、都道府県別、指定都市別の公表は行わない。

(4) 上記 (1) により「話すこと」に関する問題を実施しなかった学校においても、「話すこと」に関する問題及び調査結果を活用した授業改善が行えるよう、調査実施後すみやかに、調査問題、正答例、問題趣旨及び解答類型を公表する。

(7) 集計児童生徒・学校数

① 集計基準

児童生徒に対する調査について、平成31年4月18日に実施された教科に関する調査及び質問紙調査の結果を集計。学校に対する質問紙調査については、在籍する児童生徒が調査を実施した学校の結果を集計。

② 集計児童生徒数

(小学校第6学年，義務教育学校前期課程第6学年，特別支援学校小学部第6学年)

	調査対象児童数※1	4月18日に調査を実施した児童数※2	【参考】 4月18日～5月7日に調査を実施した児童数
公立	1,062,730人	1,028,203人	1,036,624人
国立	6,468人	6,273人	6,322人
私立	12,663人	6,030人	6,668人
合計	1,081,861人	1,040,506人	1,049,614人

(中学校第3学年，義務教育学校後期課程第3学年，
中等教育学校前期課程第3学年，特別支援学校中学部第3学年)

	調査対象生徒数※1	4月18日に調査を実施した生徒数※2	【参考】 4月18日～5月7日に調査を実施した生徒数
公立	1,002,814人	938,888人	943,028人
国立	10,698人	9,894人	10,384人
私立	79,068人	28,588人	29,652人
合計	1,092,580人	977,370人	983,064人

※1 調査対象児童生徒数について、公立・国立は、調査実施前に学校から申告された児童生徒数、私立は、平成30年度学校基本調査による。調査当日までの転入出等により増減の可能性がある。

※2 調査を実施した児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

③ 集計学校数

(小学校, 義務教育学校前期課程, 特別支援学校小学部)

	調査対象者の 在籍する学校 数	4月18日に調査を 実施した学校数 (実施率%)	【参考】 4月19日～5月7日 に調査を実施し た学校数	【参考】 4月18日～5月7日 に調査を実施した学校 数 (実施率%)
公立	19,299校	19,263校 (99.8%)	12校	19,275校 (99.9%)
国立	75校	75校 (100.0%)	0校	75校 (100.0%)
私立	226校	117校 (51.8%)	7校	124校 (54.9%)
合計	19,600校	19,455校 (99.3%)	19校	19,474校 (99.4%)

(中学校, 義務教育学校後期課程, 中等教育学校前期課程, 特別支援学校中学部)

	調査対象者の 在籍する学校 数	4月18日に調査を 実施した学校数 (実施率%)	【参考】 4月19日～5月7日 に調査を実施し た学校数	【参考】 4月18日～5月7日 に調査を実施した学校 数 (実施率%)
公立	9,572校	9,513校 (99.4%)	32校	9,545校 (99.7%)
国立	80校	77校 (96.3%)	3校	80校 (100.0%)
私立	757校	360校 (47.6%)	10校	370校 (48.9%)
合計	10,409校	9,950校 (95.6%)	45校	9,995校 (96.0%)

(8) 調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が特定の教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である。

本調査の結果においては、国語、算数・数学、英語ごとの平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、平均正答数、平均正答率のみならず、中央値、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析、評価することが必要である。また、個々の設問や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

<用語説明>

語句	説明
平均正答数	児童生徒の正答数の平均。
平均正答率	平均正答数を百分率で表示。 ○国語、算数・数学、英語ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。 ○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率。
中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。 平均値とともに集団における代表値として捉えられる。
最頻値	集団のデータにおいて、最も多く現れる値。
標準偏差	集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値が全て同じ）ことを意味する。
相関係数	二つの変数間の関係の程度を一つの数値で表す指標。相関係数は、-1から1までの範囲の値をとり、1に近いほど正の相関、-1に近いほど負の相関が強いことを表す。
解答類型	各設問についての正答、予想される解答などの解答状況を分類し整理したもの。

2. 教科に関する調査の結果（概要）

(1) 調査問題の内容, 課題等, 指導改善のポイント

○調査問題の内容

学習指導要領に示されている「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(3領域1事項)に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

- (例) ■ 公衆電話について調べたことを【報告する文章】で、資料をどのような目的で用いているか、適切なものを選択する。
- 食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】に、疑問に思ったことに対する答えになるように考えて書く。
- 昼職人への【インタビューの様子】の場面における、質問の工夫として適切なものを選択する。
- ことわざの使い方の例として適切なものを選択する。(習うより慣れよ)

○課題等

話すこと・聞くこと

- ◇ 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすることはできている。〔 3一 〕
- ◆ 目的に応じて、質問を工夫することに課題がある。〔 3二 〕

書くこと

- ◆ 情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることに課題がある。〔 1二 〕
- ◆ 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題がある。〔 1三 〕

読むこと

- ◇ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことはできている。〔 2一(1), (2) 〕
- ◇ 目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むことはできている。〔 2二 〕

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◆ 同音異義語に注意して、漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。〔 1四(1)ア, ウ 〕
- ◆ 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことに課題がある。〔 1四(2) 〕

◇…比較的できている点 ◆…課題のある点 []内の記号は、問題番号

○指導改善のポイント

話すこと・聞くこと

○ 必要な情報を得るために、目的に応じた質問をする指導の工夫

- 必要な情報を収集する手段としてインタビューをすることは、国語科の学習のみならず、他教科等においてもその機会が多いものと考えられる。インタビューをする際には、得た情報をどのように活用するのか、そのために自分が必要とする情報は何か、などの目的を明確にし、誰に何を聞くのかを十分に検討するように指導することが特に重要である。明確な目的のもとでインタビューをしようとするときには、相手から話を聞き出すために質問を工夫するなど、主体的に聞こうとする姿が期待できる。その際、児童の必要に応じて、質問の仕方を適時指導していくことが効果的である。例えば、自分の理解が曖昧なときには、再度説明を求める質問やそこまでの自分の理解を確認する質問等、相手が答えにくそうなときには、言葉をかえて聞き直したり具体例を挙げて聞いたりする質問等が考えられる。学習の場面では、どのようなときにどのように質問をすることが適切か、その質問の仕方にはどのような効果があるのかを具体的に理解し、実際にインタビューをする場で生かすことができるように指導することが大切である。

書くこと

○ 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く指導の工夫

- 調査したことを報告する文章では、調査の結果を基に自分の考えを書くことになる。その際、誰に何を報告するのかといった目的を明確にした上で、どのような理由や事例を挙げて自分の考えをまとめるのかを考えて書くように指導することが大切である。また、調査した目的と調査の結果から考えた自分の考えとがずれないように、書き進める中で見直していくように指導していくことも必要である。調査したことを報告する文章は、調査する内容が特に重要となる。児童の「調べて報告したい」という思いを大切にするために、国語科の学習のみならず、他教科等の学習内容にその題材を求めたり、総合的な学習の時間で行った調査活動の結果を、国語科の「書くこと」の学習で生かしたりすることも効果的である。

読むこと

○ 目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む指導の工夫

- 調べる学習の際には、図鑑や事典などを利用する機会が多くある。図鑑や事典などの利用については、目的に応じていろいろな種類のものを選んで読むことが効果的である。その際、目次や索引を利用して読むことができるように指導することが重要である。目次や索引の利用は、選書の際に役立つ他、本や文章全体から必要な情報を見付けるための効果的な読み方につながっていく。目次や索引のそれぞれの特徴を理解し、自分の目的や状況に応じて使い分けることができるように指導していくことが大切である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○ 同音異義語に注意して、漢字を文の中で正しく使う指導の工夫

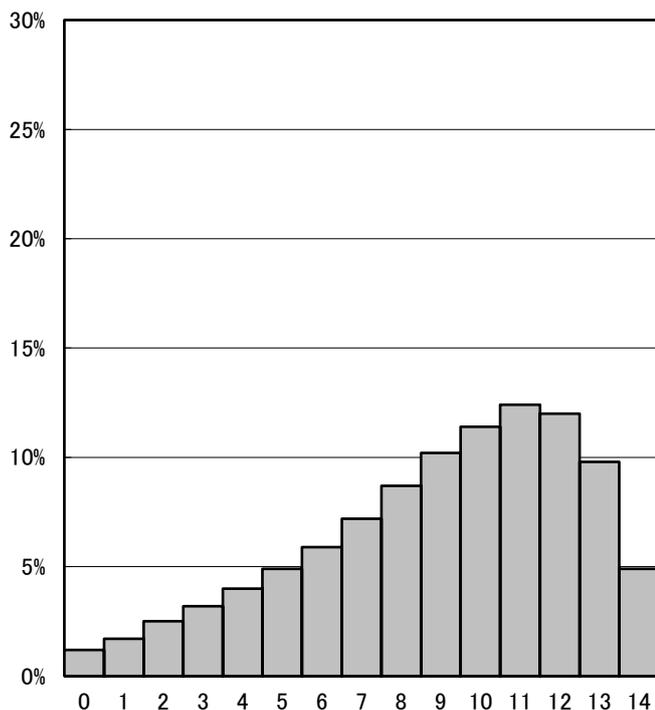
- 高学年になると、漢字による熟語などの語句の使用が一層増加するため、文や文章を書く際には、漢字のもつ意味を考えながら使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣を付けるように指導することが重要である。間違いやすい同音異義語については、漢字辞典を使って意味を調べたり、同音異義語を使い分けた短文作りをしたりする学習などを取り入れ、文や文章の中で正しく使うことができるように指導していくことが大切である。

(2) 集計結果 (正答等の状況)

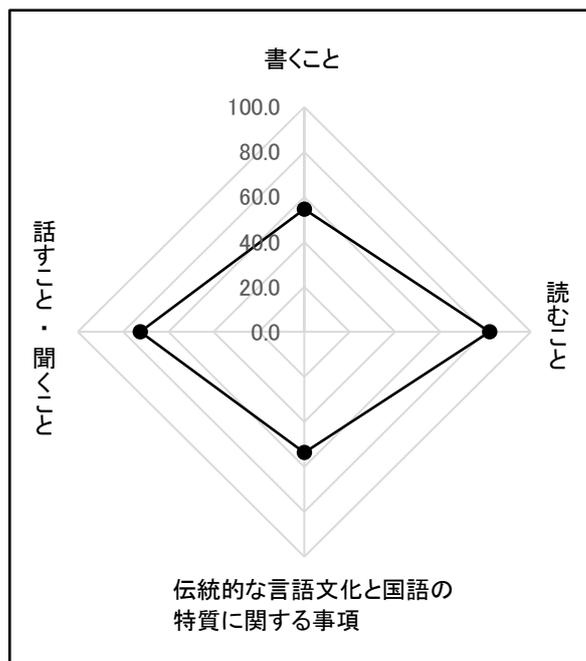
【国語】

児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
1,040,502 人	9.0 問/14 問	64.0%	10.0 問	3.4	11 問

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 児童の割合)



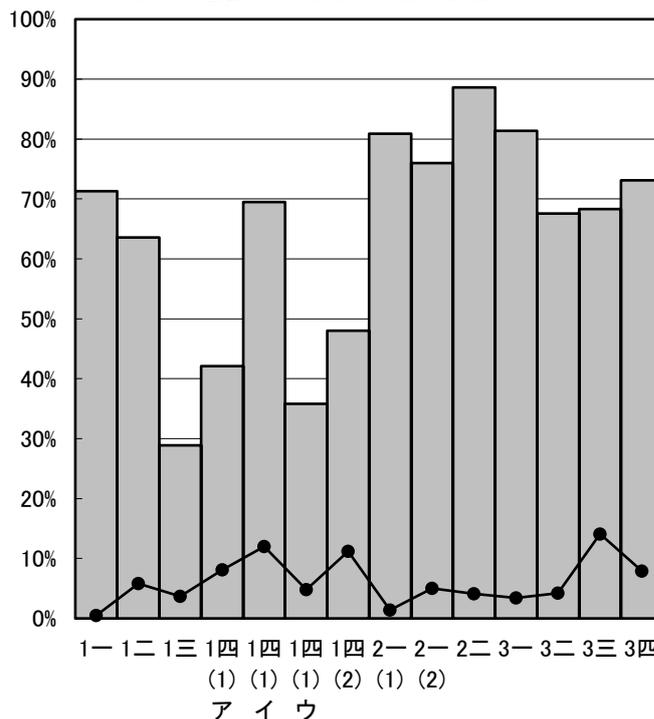
学習指導要領の領域等の平均正答率



分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	72.4
	書くこと	3	54.6
	読むこと	3	81.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	53.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	57.8
	話す・聞く能力	3	72.4
	書く能力	3	54.6
	読む能力	3	81.8
	言語についての知識・理解・技能	5	53.7
問題形式	選択式	7	75.2
	短答式	4	48.9
	記述式	3	57.8

問題別正答率「棒」・無解答率「折れ線」
(横軸: 問題番号, 縦軸: 児童の割合)



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				(参考※) 従来の区分		問題形式	正答率 (%)	無解答率 (%)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	「知識」に関する問題				「活用」に関する問題
1一	公衆電話について調べたことを【報告する文章】で〈資料2〉と〈資料3〉をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する	図表やグラフなどを用いた目的を捉える	5・6 エ									○	○	○	71.3	0.5
1二	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2)公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する	情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える	5・6 ウ									○	○	○	63.6	5.8
1三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く	5・6 ウ			○								○	28.9	3.7
1四(1) ア	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部アを、漢字を使って書き直す (調査のたいしょう)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			5・6 (1) ウ (ア)							○	○	○	42.1	8.1
1四(1) イ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部イを、漢字を使って書き直す (友達にかざらず)				5・6 (1) ウ (ア)							○	○	○	69.5	12.0
1四(1) ウ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部ウを、漢字を使って書き直す (かんしんをもってもらいたい)				5・6 (1) ウ (ア)							○	○	○	35.8	4.8
1四(2)	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□の1文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す	文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く			3・4 (1) イ (ク)							○	○	○	48.0	11.2
2一(1)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の□アに入る、疑問に思ったこと①に対する答えとして適切なものを選択する	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む	5・6 ウ									○	○	○	80.9	1.4
2一(2)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の□イに、疑問に思ったこと②に対する答えになるように考えて書く		5・6 ウ		○									○	76.0	5.0
2二	梅干し作りについて【知りたいこと】を調べるために、選んだ本の【目次の一部】から、読むページとして適切なものを選択する	目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む	5・6 イ									○	○	○	88.6	4.1
3一	量職人への【インタビューの様子】の□アに入る、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択する	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする	5・6 エ									○	○	○	81.4	3.4
3二	量職人への【インタビューの様子】の□の場面における、質問の工夫として適切なものを選択する	目的に応じて、質問を工夫する	5・6 エ									○	○	○	67.6	4.2
3三	【インタビューの様子】の□イに、量職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる	5・6 エ			○	○							○	68.3	14.1
3四	ことわざの使い方の例として、【ノートの一部】の□ウに入る適切なものを選択する(習うより慣れよ)	ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる			3・4 (1) ア (イ)							○	○	○	73.1	7.9

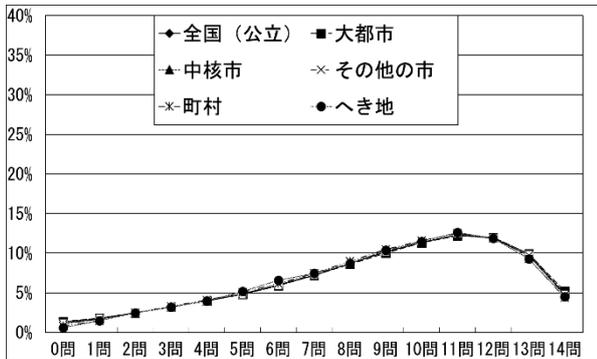
※過年度からの継続的な分析に資するため、参考として設けた。

(3) 地域の規模等の状況

○ 平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差を見ると、地域の規模等（公立：大都市、中核市、その他の市、町村、へき地）による大きな差は見られない。

[国語]

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
全国（公立）	1,028,203	8.9 / 14	63.8	10.0	3.4
大都市	277,438	8.9 / 14	63.9	10.0	3.5
中核市	238,630	8.9 / 14	63.8	10.0	3.4
その他の市	423,931	8.9 / 14	63.8	10.0	3.4
町村	87,854	8.9 / 14	63.7	9.0	3.3
へき地	16,955	8.9 / 14	63.8	9.0	3.3

※大都市（政令指定都市及び東京 23 区）、中核市、その他の市、町村の値は、当該地方公共団体の教育委員会が設置管理する公立学校に在籍する児童の調査結果（正答数）を集計したものである（都道府県立学校は含まない）。

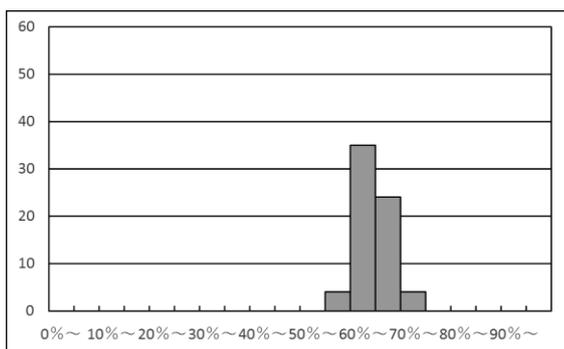
※へき地の値は、へき地教育振興法及び各都道府県の条例（規則）によって指定された学校に在籍する児童の調査結果を集計したものである。大都市、中核市、その他の市、町村の値に重複する。

(4) 都道府県・指定都市の状況

○ 各都道府県・指定都市（公立）の状況については、平均正答率を見ると、全ての都道府県・指定都市が平均正答率の±10%の範囲内にあり、大きな差は見られない。

[国語]

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：都道府県・指定都市数）



全国（公立）の平均正答率	全都道府県市（公立）中、最高平均正答率【全国との差】	全都道府県市（公立）中、最低平均正答率【全国との差】
64%	74% 【+10%】	57% 【-7%】

※都道府県は指定都市を除く。全国（公立）の平均正答率は整数値で表示している。

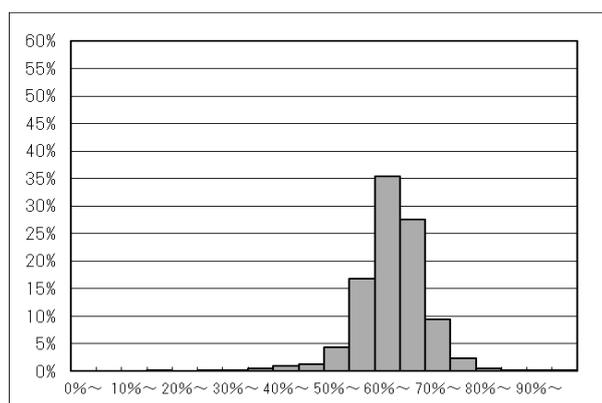
(5) 教育委員会の状況

○ 各教育委員会の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、全体としてはそれほど大きなばらつきは見られない。

[国語]

教育委員会数	教育委員会の平均正答数	教育委員会の平均正答率 (%)	教育委員会の中央値 (%)	教育委員会の標準偏差
1,785	8.9 / 14	63.5	63.8	6.9

正答率分布グラフ (横軸：平均正答率, 縦軸：教育委員会の割合)



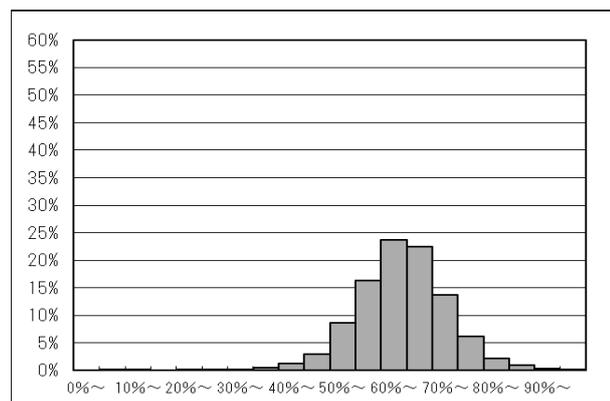
(6) 学校の状況

○ 各学校の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、全体としてはそれほど大きなばらつきは見られない。

[国語]

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率 (%)	学校の中央値 (%)	学校の標準偏差
19,455	8.9 / 14	63.9	64.3	9.3

正答率分布グラフ (横軸：平均正答率, 縦軸：学校の割合)



3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題

(1) 「3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題」の見方

調査問題について、出題の趣旨、学習指導要領における領域・内容、解答類型と反応率、分析結果と課題、学習指導に当たってなどを記述しています。

問題画像
調査問題を縮小して掲載しています。

出題の趣旨
問題ごとに、出題の意図、把握しようとする力、場面設定などを記述しています。

趣旨
問題ごとの出題の意図、把握しようとする力などを記述しています。
■学習指導要領における領域・内容
 調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実を図る際に参考となるように、関係する学習指導要領における領域・内容を示しています。

1. 解答類型と反応率
解答類型ごとの反応率、正答の条件を示しています。(詳細は下欄参照)

教科名○

問 題 画 像

出題の趣旨

設問○
趣旨

■学習指導要領における領域・内容
(第○学年)

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型	反 応 率 (%)	正 答
○	1	◎
	2	
	3	
	4	
	99 上記以外の解答	
	0 無解答	

解答類型と反応率

解答類型は、児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握することができるように、設定する条件等に即して解答を分類、整理したものです。正誤だけではなく、児童生徒一人一人の解答の状況（どこでつまづいているのか）等に注目した学習指導の改善・充実を図る際に活用することができます。

<正答>
 「◎」… 解答として求める条件を全て満たしている正答
 「○」… 問題の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

※ 反応率は小数第二位を四捨五入したものであるため、「◎」と「○」の反応率の合計と正答率が一致しない場合や合計が100%にならない場合があります。

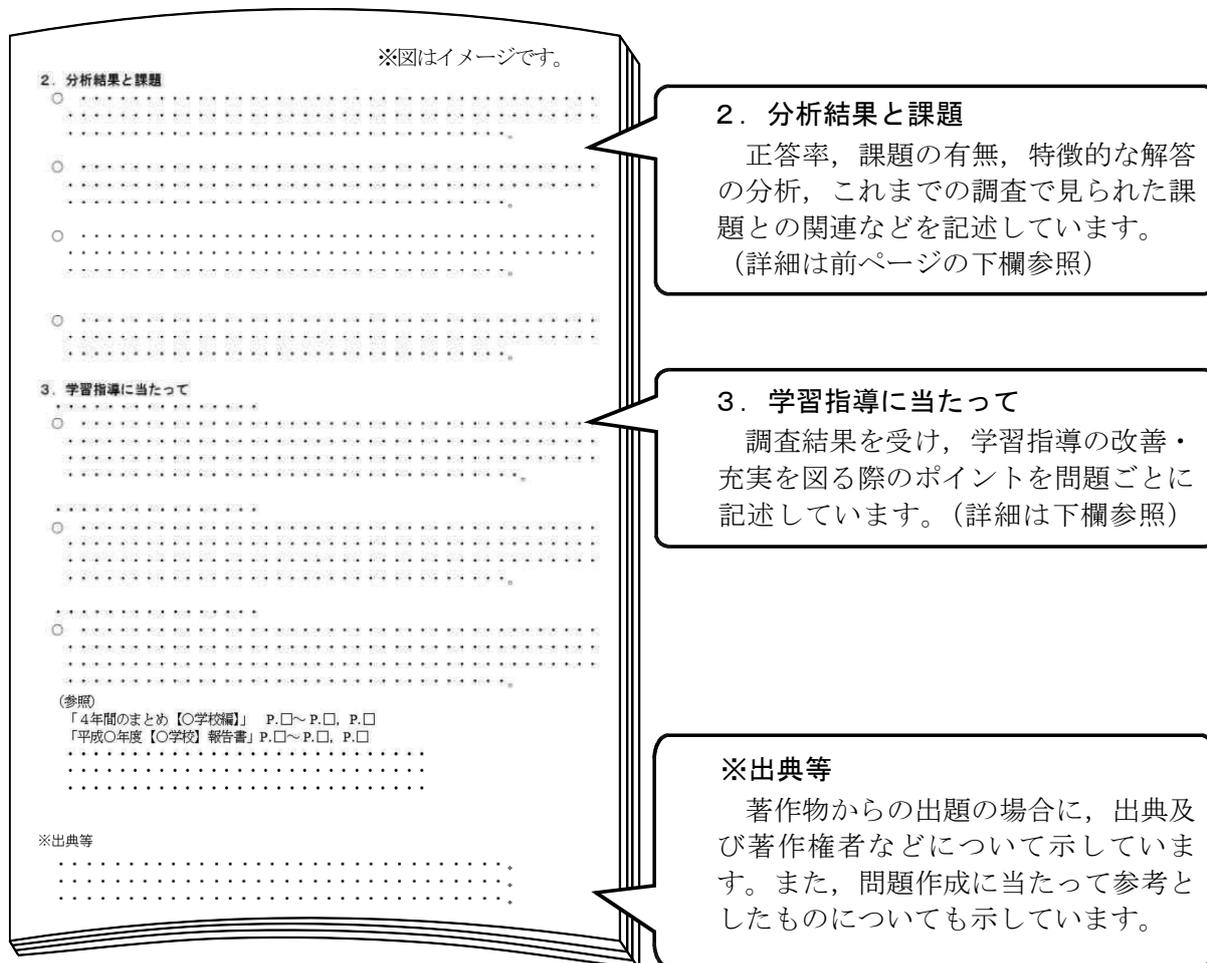
分析結果と課題

問題ごとに、以下の内容について記述しています。

- ・ 正答率、課題の有無
- ・ 特徴的な解答について、反応率、解答例、課題の詳細
- ・ これまでの調査で見られた課題との関連

など

-16-



学習指導に当たって

調査問題に関係する領域・内容について，各学年での日々の学習指導の改善・充実を図る際に御活用ください。また，本書のほか，授業の改善・充実を図る際の参考となるように，授業のアイディアの一例を示すものとして「授業アイディア例」(本年8月下旬公表予定)を作成しますので，本書及び「解説資料」(本年4月公表)と併せて御活用ください。

なお，関連する過去の調査の報告書や授業アイディア例など，これまで作成した資料の該当ページを記載していますので，これらの資料も併せて御活用ください。

本書では，以下の資料については略称を用いています。

資 料	略 称
「全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ～児童生徒への学習指導の改善・充実に向けて～【○学校編】」(平成24年9月発行)	「4年間のまとめ【○学校編】」
「平成○年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 ○学校 ○○」	「平成○年度【○学校】解説資料」
「平成○年度 全国学力・学習状況調査 報告書 ○学校 ○○」	「平成○年度【○学校】報告書」
「平成○年度 全国学力・学習状況調査【○学校】の結果を踏まえた授業アイディア例」	「平成○年度【○学校】授業アイディア例」
「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力，判断力，表現力等の育成に向けて～【○学校版】」(小学校:平成23年10月発行/中学校:平成24年6月発行/高等学校:平成26年2月発行)	「言語活動事例集【○学校版】」

3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題

(2) 小学校 国語

高橋さんの学級では、生活の中で気になったことを調べ、友達に報告することになりました。高橋さんは、公衆電話について調べています。次は、高橋さんが書いてある「報告する文章」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。



公衆電話について

高橋 めぐみ

1 はじめに
先日外出したときに、家に電話をかけたよう近くの店に行くと、あつたはずの公衆電話がなくなっていて、こまづてしまいました。また、よく行く公園の公衆電話も、いつの間にかなくなっていました。わたしは、公衆電話の数が減っているのではないかと思ひ、町の公衆電話の数を調べてみることにしました。それをまとめたものが(資料1)です。平成二十年度から二十九年度までの十年間で、約半分にまで減っていることが分かりました。そこで、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなつてしまつたのかどうか調べてみることにしました。

2 調査の内容と結果

(1) 公衆電話はどのようなときに必要なのか
多くの人がけいたい電話を持つ中で、公衆電話が必要とされているのかどうか調べてみることにしました。そこで、地いきの人三十人を調査の「アたいしう」として、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。その理由をまとめたものが(資料2)です。「けいたい電話をわすれたときに必要」「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。このことから、公衆電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされていることが分かりました。

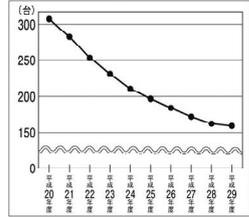
(資料2)

公衆電話が必要な理由のまとめ(複数回答)

Table with 2 columns: Reason for needing public phone, Number of people. Includes categories like 'Need when forgot mobile phone', 'Need when mobile phone battery died', etc.

(資料1)

公衆電話設置台数の移り変わり



3

(3) 公衆電話はどのような場所にあるのか
公衆電話を必要とときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もつて知つておくことが大切だと思つたので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。実際に町を歩いてまわつたものが(資料3)です。この資料から、公衆電話は、主に病院や学校、駅などの多くの人が集まる場所にあるということが分かりました。

(資料3)

公衆電話の設置場所を示した地図



また、公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすいのではないかとすることも考えました。今回の調査を通して知つたことを、学級の友達にイがきらず多くの友達に伝え、公衆電話について、わかんしんをもつてもらいたいと思ひます。

高橋さんは、「報告する文章」で(資料2)と(資料3)を、それぞれどのような目的で用いていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から5までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 現在と過去の様子を並べて示し、二つのちがいを伝えるため。
2 内容ごとに分類して示し、大まかな特ちょうを伝えるため。
3 年度ごとの数値をグラフで示し、移り変わりを伝えるため。
4 記号や印などを使って示し、実際の位置を伝えるため。
5 説明したい場所やものを写真で示し、実際の様子を伝えるため。

(資料2) ... (資料3) ...

※解答は、解答用紙に書きましよう。

二 高橋さんは、「(2) 公衆電話はどのような使い方や特ちょうがあるのか」の中で、公衆電話の使い方や特ちょうについて、くふうして書いています。そのくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 情報を整理して伝えるために、ことばを分けて並べて書いている。
2 自分の考えを強調するために、同じ言葉くり返して書いている。
3 自分の考えのもととなる事実を示すために、図や表を用いて書いている。
4 相手の理解を助けるために、使い方の手順に従つて書いている。

出題の趣旨

目的や意図に応じ、調べたことを報告する文章を、図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように工夫して書くことができるかどうかをみる。

本問は、「4年間のまとめ【小学校編】」において、「調べて分かった事実に対する自分の考えを、理由や根拠を明確にして書くこと」に課題があると指摘していること、また、平成28年度【小学校】国語B②ニ(1)（正答率51.5%）、ニ(2)（正答率64.4%）において、「目的や意図に応じて、グラフや表を基に、自分の考えを書くこと」に課題が見られたことを踏まえて出題した。本問の設問三「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと」では、正答率が28.9%であったことから、依然として課題があると考えられる。

自分で調査したことをまとめ、報告する文章を書く場合には、報告する目的を明らかにし、調査の内容や方法、調査の結果とそこから考えたことを明確にして書く必要がある。その際、調査の結果などの事実の記述は、図表やグラフを用いる方が分かりやすい場合がある。

本問では、生活の中で気になったことを調べ、報告するための文章を書く場面を設定した。高橋さんは、「公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまったのかどうか」ということに対する自分の考えを伝えるために、資料を読んだり、実際に町を歩いて調べたりして、分かった事実を図表やグラフに整理するなどして書いている。ここでは、目的や意図に応じた図表やグラフを用いたり、自分の考えとその理由を明確にしたりして書くことが求められる。また、文脈に沿って正しい漢字を使って書いたり、適切な接続語を使って文を分けて書いたりすることが求められる。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと

イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。

設問一

趣旨

図表やグラフなどを用いた目的を捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと

エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号		解 答 類 型	反応率 (%)	正答	
①	—	1	〈資料2〉に2、〈資料3〉に4と解答しているもの	71.3	◎
		2	〈資料2〉に2と解答しているが、〈資料3〉に4と解答していないもの	8.5	
		3	〈資料3〉に4と解答しているが、〈資料2〉に2と解答していないもの	11.5	
		99	上記以外の解答	8.1	
		0	無解答	0.5	

2. 分析結果と課題

- 解答類型3は、〈資料3〉の「公衆電話の設置場所を示した地図」を用いた目的は捉えることができている。しかし、〈資料2〉の「公衆電話が必要な理由のまとめ」の表を用いた目的は捉えることができていない。この中には、選択肢2の「内容ごとに分類して示し、大まかな特ちょうを伝える」という表を使うことの効果を捉えることができなかった児童もいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

図表やグラフなどを用いて効果的に書く

- 図表やグラフを用いるのは、示すべき事実が、図解したり、表形式やグラフ形式で表したりする方が分かりやすい場合である。観察や実験、調査の結果などの事実の記述は、図表やグラフを用いる方が、自分にとっても考えを深めやすく、読み手にとってもよく理解できるものとなる。図表やグラフの特徴を知った上で目的に応じて適切な図表やグラフを作成したり、本や文章から引用して用いたりすることができるようになることが大切である。

学習指導に当たっては、図表やグラフが掲載されている教材文を扱う学習において、図表やグラフを用いた筆者の目的やその効果を捉えながら、自分の表現に生かすことができるようにすることが考えられる。また、実際に報告したり説明したりする文章を書く学習において、より分かりやすくするためにどのような図表やグラフを用いるのがよいかなど、ふさわしいものを考えるように習慣付けることも大切である。なお、国語科の学習であることに鑑み、図表やグラフの読み取りが学習の中心となったり、図表やグラフを自分で作成する活動に過度に偏ったりするなど、他教科等において行うべき指導とならないよう留意する必要がある。

本問では、公衆電話設置台数の移り変わりはグラフを用いて、調査回答は表にまとめて、公衆電話の設置場所は地図を作成してそれぞれ示している。

ここでは、本問の高橋さんの文章を例に、調査内容の伝え方を工夫して書く学習活動の例を次に示す。

「調査内容の伝え方を工夫して書く」(学習活動の例)



高橋さん

「公衆電話はどのようなときに必要なのか」について、記録したカードや整理したものを基にAのように書いているのだけれど、これで伝わるかな。

〈聞いたことを記録したカード〉

A 〈高橋さんがはじめに書いた文章〉

(1) 公衆電話はどのようなときに必要なのか
 多くの人がけいたい電話を持つ中で、公衆電話が必要とされているのかどうかを調べてみることにしました。
 そこで、地いきの人三十人を調査の対象として、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。特に、「けいたい電話をわすれたときに必要」、「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。
 このことから、公衆電話は、主に「けいたい電話を使うことができないときに必要とされている」ということが分かりました。

〈記録したカードを整理したもの〉

公衆電話が必要だと回答した理由と人数(複数回答)	
・ けいたい電話をわすれたとき	正正正正T
・ けいたい電話や家の電話が つながりにくいとき	下
・ けいたい電話の使用が禁止 されている場所にいるとき	正
・ けいたい電話の電池が切れたとき	正正T
・	：

どうして、「けいたい電話をわすれたときに必要」や「けいたい電話の電池が切れたときに必要」という回答を取り上げたの。



この二つの回答が特に多かったからだよ。多かったことが分かるように、人数を付け加えればいいかな。

人数を付け加えるだけだと、この二つが本当に多かったのかは伝わらないと思うよ。他の回答とその人数も載せた方が、この二つが他の回答よりも多かったということが伝わるんじゃないかな。



でも、回答を全て文章で示すと長くなってしまって、読み手に伝わりにくくならないかな。

それなら、〈記録したカードを整理したもの〉を表にまとめて文章と一緒に示すのはどうかな。表を使うと、回答結果から分かる大まかな特徴を示すことができて分かりやすくなると思うよ。



そうだね。表を使うと、調査をして分かったことを、読み手に説得力をもって伝えることができそうだな。

付け加えた〈資料2〉についての説明も本文に書き足そうかな。



〈資料2〉について
本文に書き足した説明

B 〈高橋さんが書き直した文章〉

(一) 公衆電話はどのようなときに必要なのか。多くの人がけいたい電話を持つ中で、公衆電話が必要とされているのかどうかを調べてみることにしました。

そこで、地いきの人三十人を調査の対象として、公衆電話が必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。その理由をまとめたものが〈資料2〉です。

「けいたい電話をわすれたときに必要」、「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。

このことから、公衆電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされているということが分かりました。

〈資料2〉

公衆電話が必要な理由のまとめ(複数回答)

けいたい電話をわすれたときに必要	22人
けいたい電話の電池が切れたときに必要	12人
けいたい電話の使用が禁止されている場所にいるときに必要	5人
けいたい電話の電波がとどかない場所にいるときに必要	4人
けいたい電話や家の電話がつながりにくいときに必要	3人
その他	5人

設問二

趣旨

情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと

ウ 事実と感想，意見などを区別するとともに，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
①	二	1	1 と解答しているもの	63.6	◎
		2	2 と解答しているもの	3.1	
		3	3 と解答しているもの	19.0	
		4	4 と解答しているもの	8.3	
		99	上記以外の解答	0.2	
		0	無解答	5.8	

2. 分析結果と課題

- 解答類型3は、「(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」の部分から、「情報を整理して伝えるために，ことがらを分けて並べて書いている」という記述の仕方の工夫と，その意図を捉えることができなかつたと考えられる。この中には，選択肢3の「図や表を用いて書いている」という言葉から，【報告する文章】の全体の特徴である，図表やグラフなどの資料を用いていると捉えた児童もいたと考えられる。
- 解答類型4の中には，選択肢4の「使い方の手順」という言葉から，「(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」の部分は公衆電話の使い方を手順に従って書いていると捉えた児童もいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

情報を相手に分かりやすく伝えるために記述の仕方を工夫する

- 自分が伝えたい情報を相手に分かりやすく伝えるためには，収集した情報の中から必要な内容を整理して書くことが重要である。
そのためには，誰にどのような目的で伝えようとして書くのかを明確にすることが大切である。その上で，どのように書くと相手に伝わりやすいか，なぜそれがふさわしいのかなど，適切な記述の仕方を考えるように習慣付けることが大切である。
本問では，公衆電話の使い方や特徴について調べたことを整理し，学級の友達に分かりやすく伝えるように，箇条書きで書いている。
ここでは，本問を例に，情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方を工夫して書く学習活動の例を次に示す。

「相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方を工夫して書く」(学習活動の例)

A <高橋さんが資料を見て書き留めたもの>

公衆電話の使い方や特徴

公衆電話で警察署(110番)や消防署(119番)に通報するときには、きん急を要するので、硬貨やテレホンカードがなくても受話器を上げて番号をおせばよい。停電のときには、家の電話は使えなくなることが多いが、公衆電話は、硬貨を使えば通話をすることができる。いろいろなことがあって電話が混み合いかかりにくいときに、家の電話やけいたい電話には通信規制がかけられてしまうが、公衆電話は通信規制の対象外として優先的につながりやすい。



高橋さん

公衆電話の使い方や特徴を分かりやすく伝えたいのだけれど、Aのままでもいいのかな。

このままだと分かりにくいな。公衆電話の使い方や特徴について三つのことが分かったんだね。分かったことの一つ一つを短くまとめて、箇条書きにすると分かりやすくなると思うよ。



- ・警察署(110番)や消防署(119番)には、硬貨やテレホンカードがなくても通報することができる。
- ・停電のときでも、硬貨を使って通話することができる。
- ・電話が混み合っているときでも優先的につながりやすい。



箇条書きにしたら、分かったことについての情報を整理することができたよ。

読み手にも分かりやすくなったね。



はじめにリード文を付け加えてまとめていこうかな。



はじめに付け加えたリード文

B <高橋さんが書いた文章>

(2) 公衆電話にはどのような使い方や持ちようがあるのか
公衆電話について書かれた資料を調べてみると、公衆電話には、次のような使い方や持ちようがありました。

- ・警察署(110番)や消防署(119番)には、硬貨やテレホンカードがなくても通報することができる。
- ・停電のときでも、硬貨を使って通話することができる。
- ・電話が混み合っているときでも、優先的につながりやすい。

このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができるということが分かりました。

設問三

趣旨

目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと

ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
①	三 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から、分かったことについて言葉や文を取り上げて書いている。 ② 【報告する文章】にふさわしい表現で書いている。 ③ 書き出しの言葉に続けて、40字以上、70字以内で書いている。 ----- (正答例) ・ (「なぜなら、」公しゅう電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされていたり、きん急のときにも使うことができたりするからです。(68字)		
	1 条件①, ②, ③を満たしているもの	28.9	◎
	2 条件①, ②は満たしているが、条件③は満たしていないもの	0.0	
	3 条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	7.4	
	4 条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもののうち、「2 調査の内容と結果」の(1)からのみ、分かったことについて言葉や文を取り上げて書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	19.5	
	5 条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもののうち、「2 調査の内容と結果」の(2)からのみ、分かったことについて言葉や文を取り上げて書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	7.1	
	6 条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもののうち、「2 調査の内容と結果」の(1)や(2)から、分かったこと以外の内容について言葉や文を取り上げて書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	10.3	
	7 条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもののうち、「2 調査の内容と結果」の(3)から、言葉や文を取り上げて書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	1.0	

8	条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもののうち、「1 はじめに」や「3 調査の結果をもとに考えたこと」から、言葉や文を取り上げて書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	0.8
99	上記以外の解答	21.3
0	無解答	3.7

2. 分析結果と課題

○ 「4年間のまとめ【小学校編】」では、「調べて分かった事実に対する自分の考えを、理由や根拠を明確にして書くこと」に課題があると指摘している。本設問では、「2 調査の内容と結果」の「(1) 公衆電話はどのようなときに必要なのか」と「(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」の両方から、分かったことについて書くという場面を取り上げたところ、正答率が28.9%であった。このことから、理由や根拠を明確にして書くことに依然として課題があると考えられる。

○ 解答類型3は、条件①「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から、分かったこと」を取り上げて書くことはできている。しかし、条件②「【報告する文章】にふさわしい表現」で書くことができていない。具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 「なぜなら、」以下、この書き出しの言葉は省略する。) けいたい電話を使うことができないときに必要としている人が多く、公しゅう電話はきん急のときにも使うことができるから。(62字)
- ・ 公しゅう電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされている。そして、きん急のときにも使うことができます。(67字)

下線部のように解答した児童は、文末を常体で書いたり、敬体と常体を混在させて書いたりしており、【報告する文章】を敬体で書いているということを踏まえることができなかつたと考えられる。

○ 解答類型4と、解答類型5の反応率の合計は26.6%である。これらは、条件②「【報告する文章】にふさわしい表現」で書くことはできている。しかし、条件①を満たしていないもののうち、「2 調査の内容と結果」の(1)又は(2)のいずれかからのみ、分かったことについて言葉や文を取り上げて書いている。具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 多くの人から「けいたい電話をわすれたときに必要」、「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答が出たからです。(63字)
- ・ 公しゅう電話は、きん急のときにも使うことができるということが分かったからです。(44字)

このように解答した児童は、「3 調査の結果をもとに考えたこと」に「2 調査の内容と結果」の分かったことを理由として書くことを捉えることはできているが、(1)と(2)の両方の分かったことを理由として取り上げて書くことができていない。

- 解答類型6は、条件②「【報告する文章】にふさわしい表現」で書くことはできている。しかし、条件①を満たしていないもののうち、「2 調査の内容と結果」の(1)や(2)から、分かったこと以外の内容について取り上げて書いている。具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 多くの人がかきたい電話を持つ中で、公しゅう電話が必要とされているのかどうかを調べてみることにしました。(56字)
- ・ 公しゅう電話について書かれた資料を調べてみると、公しゅう電話ならではの特ちょうがあったからだと思います。(57字)

このように解答した児童は、「2 調査の内容と結果」の(1)や(2)の調査の内容について取り上げて書いたり、調査の内容とそこから分かったこととを区別して、分かったことを取り上げて書くことができなかつたと考えられる。

- 解答類型99の反応率は21.3%である。特徴的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 公しゅう電話を置く場所が少なくなつたからだと思います。ビルや大きい建物が建つたからです。(49字)
- ・ 公しゅう電話は、スマートフォンなどをよく使う若い人たちはあまり使っていないからです。(47字)

このように解答した児童は、【報告する文章】に書かれている内容を取り上げず、自分が考えたことを書いている。

3. 学習指導に当たって

目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く

- 自分の考えが相手に伝わるように書くためには、事実と考えとを区別して書いたり、理由を明確にして自分の考えをまとめたりすることが大切である。その際、文章の種類や特徴を踏まえて書くことが重要である。

本問のような調べたことを報告する文章では、調べた結果から自分がどのような考えをもつたかを述べることになる。その際、調べて分かつた事実が自分の考えを支える理由や事例となる。これを踏まえ、より説得力をもって自分の考えを伝えるためには、調べて分かつた事実の中からふさわしいものを取り上げ、自分の考えとの関係を十分に捉えて書くことが重要である。また、調べた目的と、調べた結果に基づく自分の考えとがずれることのないように書くことが大切である。

文章全体の構成を踏まえて書くことも重要である。調べたことを報告する文章は、「調査の目的や方法」、「調査の結果とそこから考えたこと」などで構成し、内容を書き分けるといった特徴をもつ。このような文章全体の構成に即して、自分の考えの理由を明確にして書くことが大切である。

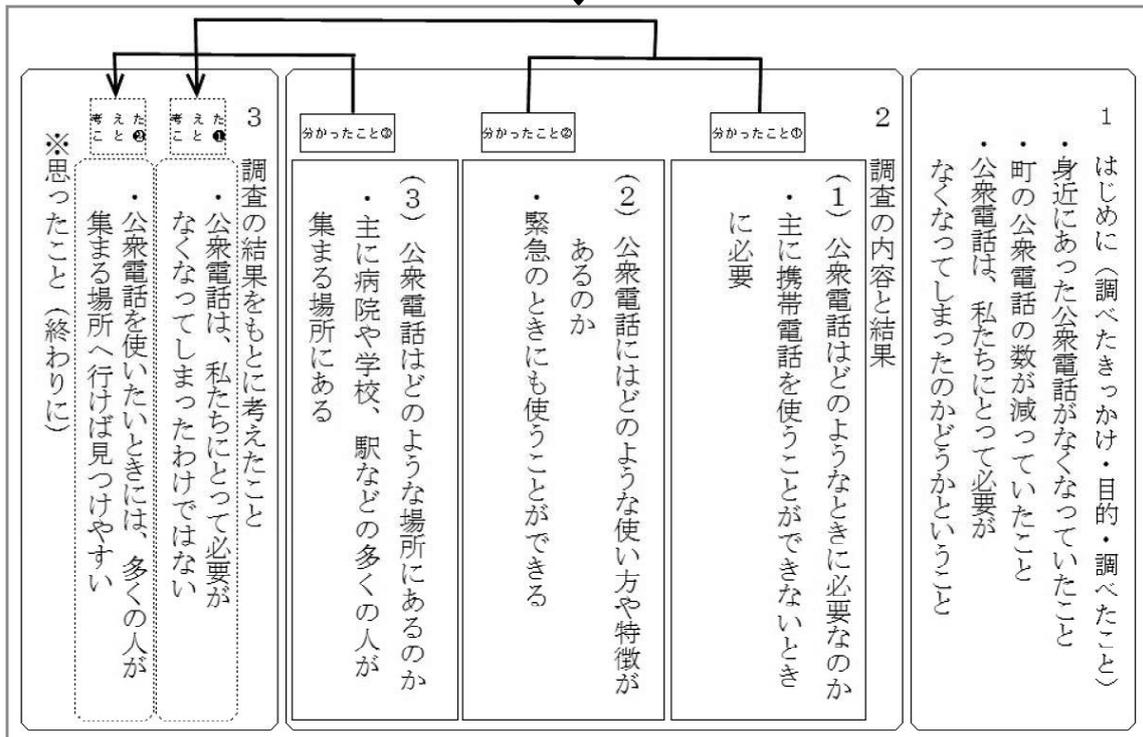
なお、児童の文章では敬体と常体が混在することがあるので、読み直して統一することができるようになることも大切である。

ここでは、本問の【報告する文章】の構成例をP.31に、【報告する文章】を書く学習活動の例をP.32～P.33に示す。

【報告する文章】と構成例

【報告する文章】	
<p>1 はじめに 先日外出したときに、家に電話をかけようとする近くの店に行く、あつたはずの公衆電話がなくなっていて、こまづてしまいました。また、よく行く公園の公衆電話も、いつの間にかなくなっていました。わたしは、公衆電話の数が減っているのではないかと、町の公衆電話の数を調べてみることにしました。それをまとめたものが（資料1）です。平成二十年度から二十九年度までの十年間で、約半分にまで減っていることがわかりました。そこで、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうのかどうか調べてみることにしました。</p> <p>2 調査の内容と結果 （1）公衆電話はどのようなときに必要なのか 多くの人がけいいたい電話を持つ中で、公衆電話が必要とされているのかどうかを調べてみることにしました。 そこで、地いきの人三十人を調査のたいしうとして、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。その理由をまとめたものが（資料2）です。「けいいたい電話をわすれたときに必要」「けいいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。 このことから、公衆電話は、主にけいいたい電話を使うことができないときに必要とされているということがわかりました。 （2）公衆電話にはどのような使い方や特徴があるのか 公衆電話について書かれた資料を調べてみると、公衆電話には、次のような使い方や特徴がありました。 ・警察署（110番）や消防署（119番）には、硬貨やテレホンカードがなくとも通報することができるとある。 ・停電のときでも、硬貨を使って通話ができることがある。 ・電話が混み合っているときでも、優先的につながりやすい。 このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができるということがわかりました。 （3）公衆電話はどのような場所にあるのか 公衆電話を必要とときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。実際に町を歩いてまとめたものが（資料3）です。 この資料から、公衆電話は、主に病院や学校、駅などの多くの人が集まる場所にあるということがわかりました。</p> <p>3 調査の結果をもとに考えたこと 調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうわけではないと考えました。なぜなら、 ① 公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすいのではないかと、わたしは、今回の調査を通して知ったことを、学校の友達に、かきらす多くの友達に伝え、公衆電話についてわかかんしんをもってもらいたいと思います。</p>	<p>1 はじめに（調べたきっかけ・目的・調べたこと） ・身近にあつた公衆電話がなくなつていたこと ・町の公衆電話の数が減つていたこと ・公衆電話は、私たちにとって必要がなくなつてしまったのかどうかということ</p> <p>2 調査の内容と結果 （1）公衆電話はどのようなときに必要なのか ・主に携帯電話を使うことができないときに必要</p> <p>（2）公衆電話にはどのような使い方や特徴があるのか ・緊急のときにも使うことができる</p> <p>（3）公衆電話はどのような場所にあるのか ・主に病院や学校、駅などの多くの人が集まる場所にある</p> <p>3 調査の結果をもとに考えたこと 調査の結果をもとに考えたこと ・公衆電話は、私たちにとって必要がなくなつてしまったわけではない（考えたこと①） ・公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすい（考えたこと②）</p> <p>※思つたこと（終わりに）</p>

【報告する文章】の構成表の例



「3 調査の結果をもとに考えたこと」には、「公衆電話は、私たちにとって必要がなくなつてしまったわけではない（考えたこと①）」、「公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすい（考えたこと②）」ということを書いている。二つの考えはそれぞれ「分かつたこと①②」、「分かつたこと③」を対応させて書いている。

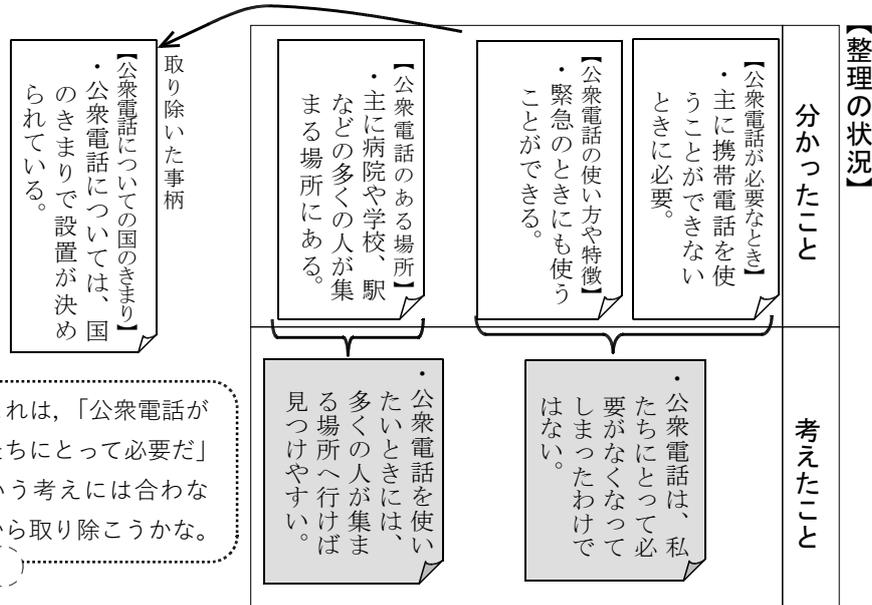
「生活の中で気になったことを調べて、報告する文章を書く」（学習活動の例）

学習の流れ

- ① 生活の中で気になっていることについて報告する文章にまとめる、というめあてを確認し、どのような構成で書くのかという見通しをもつ
 - 気になっていること→公衆電話は私たちにとって必要か
 - 調べること→公衆電話の必要性（必要とされているのか。どのようなときに必要か。）
 - 公衆電話の特徴（どのようなよさがあるのか。）
 - 公衆電話のある場所（どのような場所にあるのか。）
 - 公衆電話についての国のきまり（何かきまりはあるのか。）
 - 構成→調べたきっかけ、調べた内容、調べた結果、調べた結果から考えたこと
- ② 調査を行い、調べた結果を整理して、書くために必要な事柄を選ぶ
 - 資料で調べたり、実際に足を運んで調べたりする。
 - 調べて分かったことを整理し、そこから自分の考えをもつ。
 - 書くために必要な事柄を取捨選択し、「分かったこと」と「考えたこと」をまとめる。



調べて分かったことを並べて見てみると、やっぱり「公衆電話は私たちにとって必要なものだ」と考えられるな。その考えが伝わる事柄を選んで書こう。



これは、「公衆電話が私たちにとって必要だ」という考えには合わないから取り除こうかな。



〈指導する際の留意点〉

- 調べたことを付箋などに書き出し、取捨選択していくと、整理しやすくなる。
- 「分かったこと」と「考えたこと」とが結び付くかを確かめることができるようにする。
 (例) それぞれを上段と下段に配置して結び付きを視覚的に捉えることができるようにする。

③ 報告する文章の構成表を作る

- 「はじめに」、「調査の内容と結果」、「調査の結果をもとに考えたこと」などの文章全体の構成を決める。
- 全体の構成に即して、書くべき大まかな内容を決め、番号や見出しを付けて構成表を作成する。

3			2			1	【構成表】	
終わりに	考えたこと②	考えたこと①	分かったこと③	分かったこと②	分かったこと①	調べたこと		きっかけ
・多くの友達に伝え関心をもってもらいたい。	・公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすい。	・公衆電話は、私たちにとって必要がなくなってしまうわけではない。	・主に病院や学校、駅などの多くの人が集まる場所にある。	・緊急のときにも使うことができる。	・主に携帯電話を使うことができないときに必要。	・公衆電話は、私たちにとって必要がなくなってしまったのか。	・町の公衆電話の数は、十年間で約半分減っていた。	・身近にあった公衆電話がなくなっていた。
		調査の結果をもとに考えたこと	(3) 公衆電話はどのような場所にあるのか	(2) 公衆電話にはどのような使い方や特徴があるのか	(1) 公衆電話はどのようなときに必要なのか			
			資料3 地図		資料2 表			
							資料1 グラフ	

〈指導する際の留意点〉

- 見出しに沿って書く事柄を組み立てる。その際、「2 調査の内容と結果」には事実を、「3 調査の結果をもとに考えたこと」には考えを、それぞれ区別して組み立てるようにするなど、構成に即して書き進めることができるようにする。
- 調べて分かったことなどの事実から自分の考えをもつことができるように指導することが大切である。事実と考えとの違いについては、教材文等を用いた学習の中で、その違いを確かめる指導をすることが考えられる。また、事実と考えとを区別して書くには、事実を客観的に書いたり、その事実と感想や意見との関係を十分捉えて書いたりすることが重要である。また、文末表現に注意して書くように指導することも重要である。

④ 【構成表】を基に記述し、推敲する

- 記述の仕方について考える。
 - ・ 目的に応じて、ふさわしい図表やグラフを用いて書く。
 - ・ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする。
- 書いたものを読み返し、必要に応じて書き直す。

⑤ 書き終えた報告する文章を互いに読み合い、学習のまとめをする

(参照)「4年間のまとめ【小学校編】」P. 6～P. 7

設問四(1)

趣旨

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1) ウ 文字に関する事項

(ア) 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答
①	四 (1) ア	1 「対象」と解答しているもの	42.1	◎
		2 「たい」を「対」と解答しているが、「しょう」を「照」と解答しているもの	3.4	
		3 「たい」を「対」と解答しているが、「しょう」を「象」、「照」と解答していないもの	29.3	
		4 「たい」を「対」と解答していないが、「しょう」を「象」と解答しているもの	1.6	
		99 上記以外の解答	15.5	
		0 無解答	8.1	
	四 (1) イ	1 「限(らず)」と解答しているもの	69.5	◎
		99 上記以外の解答	18.4	
		0 無解答	12.0	
	四 (1) ウ	1 「関心」と解答しているもの	35.8	◎
		2 「しん」を「心」と解答しているが、「かん」を「感」と解答しているもの	46.9	
		3 「しん」を「心」と解答しているが、「かん」を「関」、「感」と解答していないもの	2.6	
		4 「かん」を「関」と解答しているが、「しん」を「心」と解答していないもの	0.4	
		99 上記以外の解答	9.4	
		0 無解答	4.8	

2. 分析結果と課題

- 四(1)アは、平成29年度【小学校】国語A7(1)（正答率42.3%）と同一の問題である。本設問では、正答率が42.1%であったことから、依然として課題があると考えられる。
- 四(1)アの解答類型2と、解答類型3の反応率の合計は32.7%である。解答類型3の中には、「象」を「称」と解答している児童が多く見られた。正答の「対象」と同音異義語である「対照」や「対称」などとの意味の違いを捉えることができず、文脈の中での使い分けができなかったと考えられる。

- 四(1)イの解答類型99の反応率は18.4%である。この中には、同じ部分をもつ「退」や「眼」と解答している児童も見られた。
- 四(1)ウの正答率は35.8%であり、「関心」という漢字を文の中で正しく書くことができていない。
- 四(1)ウの解答類型2は、正答の「関心」と同音異義語の「感心」との意味の違いを捉えることができず、文脈の中での使い分けができなかったと考えられる。

3. 学習指導に当たって

文や文章の中で、漢字を正しく使う

- 漢字の学習指導に当たっては、日常的に文や文章の中で適切に使うことができるようにすることが大切である。そのためには、新出漢字を読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、本問のように自分が書いた文章を見直す中で、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中での正しい使い方を習得できるようにすることが大切である。
また、漢字の指導は各学年の発達段階に応じて指導することが大切である。その際、それぞれの学年において、以下を踏まえて指導することが効果的である。

第1学年及び第2学年

第1学年では、漢字に対する興味や関心、字形に関する意識などを養いながら、学年に配当されている80字の漢字を読めるようにする。第1学年の配当漢字には、象形文字や指事文字が多く含まれているので、漢字の字形と具体的な事物（実物や絵など）とを結び付けるなどの指導を工夫し、漢字が表意文字であることを意識しながら、漢字に対する興味や関心を高められるようにする。また、漢字単独の読みだけではなく、文や文章の中で漢字を読むことも大切にして、文脈の中での意味と結び付けていくようにする。

「漸次書き、文や文章の中で使う」とは、学習した漢字を習得できるように少しずつ練習を重ねるとともに、実際の文や文章で使うようにすることである。児童の中には、知識として漢字を知っていても、実際に文章を書くときに使わないことがある。そのような実態に留意し、実際に使うことによって有効性を実感するとともに、2学年にわたって確実に定着するように実際に書く態度を養うようにする。

第3学年及び第4学年

中学年においては、「(ウ)漢字のへん、つくりなどの構成について知識をもつこと。」と関係付けながら、漢字の読み書きに関する指導を進める。また、漢字辞典の使い方に慣れてきたら、自分で新出漢字の読みや意味などを調べる活動も取り入れるようにする。

なお、中学年は、漢字による熟語などの語句が増加する時期でもある。したがって、文や文章を書く際には、漢字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、当該学年の前の学年までに学習した漢字を意識して使ったりする習慣を付けるように指導することが大切である。

第5学年及び第6学年

高学年は、漢字による熟語などの語句の使用が増加する時期でもある。したがって、文や文章を書く際には、漢字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、「収める」、「納める」、「治める」などの同音異義語に注意して使ったりする習慣を付けるように指導する。また、漢字辞典の使い方に慣れてきたら、自分で新出漢字の読みや意味などを調べる活動を取り入れることも大切である。

「小学校学習指導要領解説 国語編」(平成20年8月)による

特に同音異義語の学習指導に当たっては、同じ音からいくつかの熟語を思い浮かべ、それぞれの意味を考えて文脈にふさわしい熟語を選んで書くことができるようにすることが大切である。

設問四(2)

趣旨

文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第3学年及び第4学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1) イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(ク) 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答
①	四 (2)	1 「思いました。(そこで,)わたしは,」「と思います。(そこで,)わたしは,」などと解答しているもの	48.0	◎
		99 上記以外の解答	40.8	
		0 無解答	11.2	

2. 分析結果と課題

- 平成25年度【小学校】国語A³二(1) (正答率23.6%)では、「文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと」に課題があると指摘している。本設問では、正答率が48.0%であったことから、依然として課題があると考えられる。
- 解答類型99の反応率は40.8%である。特徴的な例としては、以下のようなものがある。

(例①)

- ・ 「にしました。(そこで,)実際に町を」

このように解答した児童は、二つの内容に分けて書く箇所を正しく理解することができていない。

(例②)

- ・ 「ったので,(そこで,)わたしは,」
- ・ 「だと思った。(そこで,)わたしは,」
- ・ 「とが大切だ。(そこで,)わたしは,」

このように解答した児童は、二つの内容に分けて書き直す箇所については理解しているものの、文末を【報告する文章】にふさわしい表現に書き直すことができていない。これは、高橋さんが【報告する文章】を分かりやすくするために書き直しているという学習過程を踏まえることができていないと考えられる。

3. 学習指導に当たって

接続語を使って、内容を分けて書く

○ 読み手に分かりやすい文章で書くことの一つに、一文の長さを意識して、長くて伝わりにくいと感じた文は適当な長さの複数の文に分けて書くことが挙げられる。その際、接続語を適切に用いることで、前後の文の意味のつながりを明確にすることができる。

接続語は、文や文章の構成にかかわる語で、前後の文節や文などをつなぐ働きをもつ。文章を書く様々な機会を捉えて、文脈に沿って接続語の役割を理解するとともに、接続語を使って文を分けて書く指導を工夫することが大切である。

具体的には、本問のように自分が書いた文章を、文の長さという点に注目して読み返す学習が考えられる。一文の中で伝えようとしている内容が多く、長くて分かりにくい場合には、接続語を使って複数の文に分けて書き直していく。その際、以下の点などに注意するように指導することが考えられる。

- ・ 文と文との意味のつながりに気を付けて分けているか。
- ・ 接続語の役割を正しく捉え、適切に選んで使っているか。
- ・ 文末表現を整えているか。

書き直す前と後の文を比べ、接続語を使って複数の文に分けて書き直したことで、伝えたいことがより明確になったという実感をもつことができるようにすることも大切である。

※出典等

総務省「災害等緊急時における有効な通信手段としての公衆電話の在り方」参考資料，
総務省「公衆電話の特徴と使用方法」などを参考にした。

国語 2 疑問に思ったことを調べ、紹介し合う（「食べ物の保存」）

一 宮原さんは【資料】を読み、ノートにまとめています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) 「ノートの一部」の **ア** には、**疑問に思ったこと** の①の答えになる内容が入ります。その内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 水分が多くなり、食べ物がぐさりやすくなるから。
- 2 細菌が増え、水分を蒸発させることができるから。
- 3 水分が少なくなり、細菌が増えにくくなるから。
- 4 細菌が減り、水分を増やすことができるから。

(2) 「ノートの一部」の **イ** に入る内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。

【ノートの一部】

② 昔の人が食べ物を保存する方法を考えなければならなかった理由は、

イ

（条件）

- **「疑問に思ったこと」** の②の答えになるように考えて書くこと。
- **「資料」** から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 四十文字以上、七十文字以内にまとめて書くこと。

※左の原稿紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
 ※◆の印から書きましょう。どちらのようで行き交えないで、続けて書きましょう。

70字

40字

二 宮原さんは、食べ物の保存について調べたあと、自分でも梅干しを作ろうと思い、必要な情報が書かれていそうな本を選びました。次は、「知りたいこと」と本の【目次の一部】です。宮原さんが読むページとして最も適切なものを、あとの**1**から**4**までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【知りたいこと】

梅干しを作るには、塩はどのくらい必要で、いつ入れたらいいのかな。



宮原さん

【目次の一部】

第2章 梅干し	
○ 梅干しはどこからきたのか … 40ページ	1
・梅干しの起源	
○ はじめてでも簡単! おうちで梅干し … 55ページ	2
・梅と塩、道具の選び方	
・作り方の手順とポイント	
○ 梅干しの活用術 … 67ページ	3
・いわしの梅煮	
・わかめと梅干しのスープ	
○ 梅干しの豆知識 … 77ページ	4
・故事とことわざ	

食べ物を保存する

◆ 食べ物は生命の源

生き物は、食べ物がなければ生きていくことができません。食べ物を安定して確保することは、生きる上で欠かせないことです。

例えば、リスは秋になるとドングリを土にうめ、食料をたくわえます。クマはたくさんのお肉を食べ、体に栄養をたくわえて冬眠に入ります。動物たちは、このようにして生きぬいているのです。

わたしたち人間は、食べ物を保存する技術がなかったころは、いつでもおなかを満たすことができるというわけではありませんでした。季節や天候などにより、農作物や肉、魚などが手に入らないことがあったからです。また、運よく大量の食べ物が手に入ったとしても、そのままにしておくと、くさって食べられなくなってしまうこともありました。そのため、人々は昔から様々な方法で食べ物の保存を試みてきました。失敗をくり返しながらよりよい保存方法を獲得し、次の世代へつないできたのです。

◆ 保存のふしぎ

食べ物がくさる主な原因は、食べ物をくさらせる細菌が増えることです。その細菌は食べ物の水分を利用して増えます。そのため、水分が少なくなれば細菌は増えにくくなり、食べ物はくさりにくくなります。

では、水分を少なくするにはどのようにしたらよいのでしょうか。例えば、塩や砂糖を使うという方法があります。塩や砂糖には水分を吸い出す力があるため、塩や砂糖を使ってつけることで水分を少なくすることができるのです。また、かんそうさせるといいう方法もあります。日光や風に当てて干すことで、水分を蒸発させることができます。

これらの方法を使った保存食には次のようなものがあります。

<p>塩を使う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山菜の塩づけ ・豚肉の塩づけ ・魚の塩づけ 	<p>砂糖を使う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果物の砂糖づけ ・ジャム 	<p>かんそうさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切り干し大根 ・かんぴょう ・こんぶ
---	--	---

「フートの一部」

よく読んで、あとの問いに答えましょう。

宮原さんの学級では、身近な食べ物について疑問に思ったことを調べ、友達と紹介し合うことにしました。次は、宮原さんの「フートの一部」と宮原さんが選んだ【資料】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

宮原さんの学級では、身近な食べ物について疑問に思ったことを調べ、友達と紹介し合うことにしました。次は、宮原さんの「フートの一部」と宮原さんが選んだ【資料】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【資料】

食べ物の保存について

調べようと思っただけ

春休みに、祖母から梅干しをもらったが、それが十年前に作られたものだを知りおどろいた。十年もたつのになぜ食べられるのかと聞くのと、塩づけにしたり干したりしているからだという事だった。昔の人はくふうして食べ物を保存してきたのだと、祖母は教えてくれた。

疑問に思ったこと

① なぜ食べ物を塩づけにしたり干したりすると保存できるのか。

② なぜ昔の人は、食べ物を保存する方法を考えなければならなかったのか。

調べて分かったこと

① 食べ物を塩づけにしたり干したりすると保存できる理由は、

ア

イ

② 昔の人が食べ物を保存する方法を考えなければならなかった理由は、



出題の趣旨

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができるかどうかをみる。

本問は、平成28年度【小学校】国語B **3**三（正答率53.2%）において、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと」に課題が見られたことを踏まえて出題した。本問の設問一(1)の正答率は80.9%、設問一(2)の正答率は76.0%であったことから、今回の調査を見る限り、改善状況が見られる。

楽しむため、調べるためなど、読む目的は様々である。本や文章などを、目的に応じて様々な読み方で読むことができるようにすることが重要である。

本問では、身近な食べ物について疑問に思ったことを調べ、紹介し合うために、本や文章を選んで読む場面を設定した。宮原さんは、祖母から聞いた話をきっかけに、食べ物の保存について疑問に思ったことを明らかにするために、資料を選んで読んでいる。ここでは、目的に応じて本や文章を選び、内容を的確に押さえて読むことが求められる。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第3学年及び第4学年〕 C 読むこと

イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。

設問一

趣旨

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと

ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。

(1)

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答
② — (1)	1	1 と解答しているもの	4.9	
	2	2 と解答しているもの	6.7	
	3	3 と解答しているもの	80.9	◎
	4	4 と解答しているもの	5.9	
	99	上記以外の解答	0.2	
	0	無解答	1.4	

2. 分析結果と課題

- 解答類型 2 と、解答類型 4 の反応率の合計は12.6%である。これらは、【資料】の「◆ 保存のふしぎ」に書かれている「水分が少なくなれば細菌は増えにくくなり、食べ物はくさりにくくな」という食べ物の保存に関わる水分と細菌との関係を十分に捉えることができなかつたと考えられる。
- 解答類型 1 は、【資料】の「◆ 保存のふしぎ」に書かれている食べ物がくさる主な原因については捉えることができているが、宮原さんの「疑問に思ったこと」の①「なぜ食べ物を塩づけにしたり干したりすると保存できるのか」に対する答えになる内容ではない、ということ捉えることができなかつたと考えられる。

(2)

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
② (2)	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 疑問に思ったこと の②の答えになるように考えて書いている。 ② 【資料】 から言葉や文を取り上げて書いている。 ③ 40字以上、70字以内で書いている。 (正答例) ・ 季節や天候により、食べ物が手に入らないことや、手に入ったとしても、そのままにしておくと、くさって食べられなくなってしまうこともあったから。(69字)		
	1 条件①, ②, ③を満たしているもの	76.0	◎
	2 条件①, ②は満たしているが、条件③は満たしていないもの	1.2	
	3 条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	3.7	
	4 条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	10.9	
	99 上記以外の解答	3.2	
	0 無解答	5.0	

2. 分析結果と課題

- 解答類型1は、宮原さんの**疑問に思ったこと**の②「なぜ昔の人は、食べ物を保存する方法を考えなければならなかったのか」に対する答えになるように、**【資料】**から言葉や文を取り上げて書くことができている。具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例①)

- ・ 季節や天候により、肉や魚が手に入らないことがあって、運よく食べ物が多く手に入ってもくさって食べられなくなってしまうこともあったから。(66字)
- ・ 食料を安定して確保することがむずかしく、運よく大量の食べ物が手に入ったとしても、そのままにしておくと食べられなくなることがあったから。(67字)

このように解答した児童は、宮原さんの疑問を明らかにするためには、食べ物を安定して確保する必要があることと、保存できないことで生じる「くさって食べられなくなってしまうこと」などの不利益があることが必要な情報であると捉えたと考えられる。具体的には、**【資料】**に書かれている「食べ物を安定して確保する」、「農作物や肉、魚などが手に入らない」、「くさって食べられなくなってしまう」などの言葉に着目して書いている。

(例②)

- ・ 昔は季節や天候によって食べ物が手に入らないこともあったので、食べ物を安定して確保することは、生きる上で欠かせないことだったから。(64字)

このように解答した児童は、宮原さんの疑問を明らかにするためには、食べ物を安定して確保する必要があることが必要な情報であると捉えたと考えられる。具体的には、**【資料】**に書かれている「食べ物を安定して確保する」などの言葉に着目して書いている。

(例③)

- ・ 昔は、保存をする方法がなかったので、運よく大量の食べ物が手に入ったとしても、その食べ物はくさって食べられなくなってしまうから。(63字)

このように解答した児童は、宮原さんの疑問を明らかにするためには、保存できないことで生じる「くさって食べられなくなってしまうこと」などの不利益があることが必要な情報であると捉えたと考えられる。具体的には、【資料】に書かれている「くさって食べられなくなってしまう」などの言葉に着目して書いている。

○ 解答類型3の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 今は、冷ぞう庫などの便利な家電製品があるので、かん単に食品をとっておくことができるけれど、昔はそれがなかったから。(57字)
- ・ かりをしていたころは、栄養になるものがとれなくてこまるときもあったので、かりがうまかったときにたくわえる必要があったから。(62字)

このように解答した児童は、宮原さんの疑問に思ったことの②「なぜ昔の人は、食べ物を保存する方法を考えなければならなかったのか」に対する答えになるように書くことはできているものの、【資料】から言葉や文を取り上げて書くことができていない。自分の生活経験や知識に基づいて書いている。

○ 解答類型4の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 食べ物をくさらせる細菌が増えるから。果物や野菜にはたくさんの水分があって、その細菌は、食べ物の水分を利用して増えていくから。(62字)
- ・ 人々は昔から様々な方法で食べ物の保存を試み、失敗をくり返しながらいよいよ保存方法をかく得し、次の世代へつなげてきたから。(60字)

このように解答した児童は、【資料】から言葉や文を取り上げて書くことはできているものの、宮原さんの疑問に思ったことの②「なぜ昔の人は、食べ物を保存する方法を考えなければならなかったのか」に対する答えになるように書くことができていない。食べ物がくさる主な原因やいよいよ保存方法を獲得してきた経緯に着目して書いている。

3. 学習指導に当たって

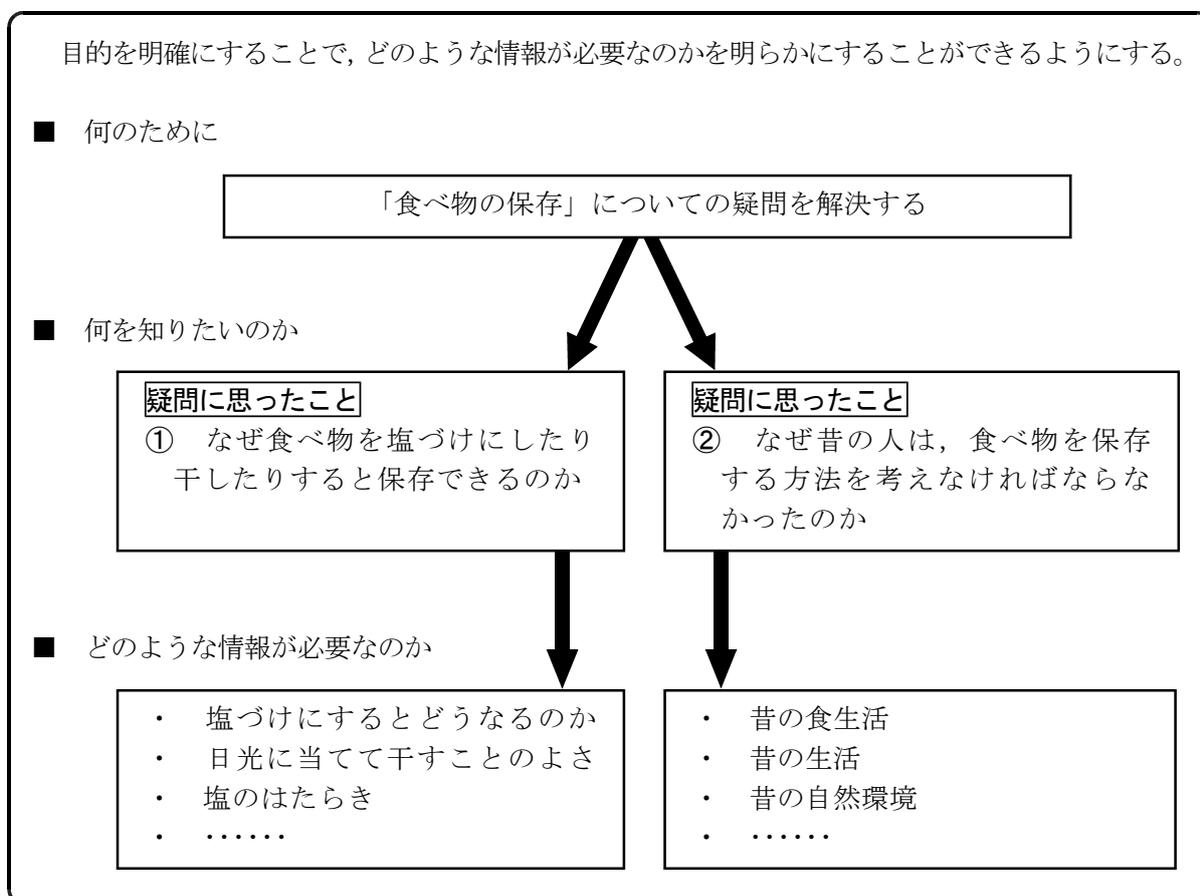
目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む

- 目的に応じて、「文章の内容を的確に押さえ」るためには、何のために、何を知りたいのか、どのような情報が必要なのかなどを明確にした上で、文章に書かれている話題、筆者の考えとその理由や事例となっている内容、構成の仕方などに注意しながら、表現に即して重要な点を的確に押さえて読むことが大切である。その際、目的がはっきりしないまま段落に見出しを付けながら読んだり、一文ごとに書かれている話題、理由や事例などを読んだりするのはなく、目的に照らし、自分にとって必要な内容であるかどうかを、文章全体から大まかにつかんで読むことも大切である。設問一(1)では、宮原さんの「**疑問に思ったこと**」の①「なぜ食べ物を塩づけにしたり干したりすると保存できるのか」の理由については、【資料】の中の「◆ 保存のふしぎ」の部分に書かれていることを捉えて読むことが求められている。

また、筆者が、どのような事実を事例として挙げ理由や根拠としているのか、どのような感想や意見、判断や主張などを行い、自分の考えを論証したり読み手を説得したりしようとするのかなどについて、筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握し、自分の考えを明確にしていくことが大切である。そのためには、自分の知識や経験、考えなどに関係付けながら読み、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構築したりして、理解したことをまとめることが大切である。その際、目的に応じて必要な情報が変わるため、注目すべき言葉や要約する部分も変わるということを実感できるようにすることが大切である。

ここでは、本問を例に、目的に応じて文章の内容を的確に押さえて読む学習活動の例を以下に示す。

「目的を明確にし、必要な情報を明らかにする」(学習活動の例)



「自分の知識や経験、考えなどと関係付けながら読む」(学習活動の例)

調べるために読むという課題意識をもって本や文章を読む場合、既知の知識や経験などを基に「きっとこうではないか」という予想や推測を働かせて読んだり、関連する言葉や似た意味をもつ他の言葉、他の事例などに置き換えながら読んだりすることが大切である。

実際の授業場面において、このような一連の思考は児童一人一人の頭の中で行われていることが多い。そこで、それらを意図的に言語化し、顕在化させることで、より言葉に注目したり、自分の考えと比較したりしながら文章の中から必要な情報を取捨選択することができると思われる。

具体的には、何を手掛かりにして考えたのかを友達と確かめ合いながら学習を進めていくことが挙げられる。そのようにすることで、必要な情報を見つけて読むための手掛かりを他者から得ることができるばかりではなく、自分とは違う新たな視点で文章を読み、理解することにつなげていくことが期待できる。

本問の宮原さんの「疑問に思ったこと」の①「なぜ食べ物を塩づけにしたり干したりすると保存できるのか」においては、選んだ資料から目的に応じて必要な情報を見つけていくために次のような学習活動の例が考えられる。



「なぜ食べ物を塩づけにしたり干したりすると保存できるのか」について調べたいのだけれど、みんなは選んだ資料からどうやって必要な情報を見付けるのかな。



ぼくはいつも、まず「こうじゃないかな」と予想してみるよ。例えばぼくは、塩には殺菌効果があると聞いたことがあるから、塩づけにして体に悪い菌を殺すから保存できるのかもしれないと予想したよ。



そういえば、この前お父さんとおにぎりを作ったときに、塩には殺菌効果があるって教えてもらったよ。



私のおばあちゃんは家で魚を干しているけれど、日光で殺菌するとか、水分を蒸発させるとか聞いたことがあるな。



関連する言葉から必要な情報を見付けることもできそうだね。例えば、菌や殺菌、水分という言葉も保存と関連していると思うよ。



なるほど。それなら、日光で「殺菌」したり、「水分」を蒸発させたりすると保存できると予想して読んでみようかな。
自分で予想した内容や言葉と本に書かれていることとを比べながら読むと、調べたい内容と合う情報が見付けられそうだね。



設問二

趣旨

目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと

イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型		反応率 (%)	正答	
②	二	1	1 と解答しているもの	2.9	◎
		2	2 と解答しているもの	88.6	
		3	3 と解答しているもの	2.8	
		4	4 と解答しているもの	1.4	
		99	上記以外の解答	0.2	
		0	無解答	4.1	

2. 分析結果と課題

- 解答類型1と、解答類型3の反応率の合計は5.7%である。これらは、宮原さんの【知りたいこと】の内容を捉え、【目次の一部】を活用し、必要な情報を得るために適切なページを選ぶことができなかつたと考えられる。この中には、宮原さんの【知りたいこと】である「梅干しを作る」と【目次の一部】に書かれている「梅干しの起源」や「梅干しの活用術」という言葉とを関係付けて捉えた児童もいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

必要な情報を得るために、本や文章全体を概観して効果的に読む

- 高学年になると、自らの課題を解決するための必要な情報を得るために様々な本や文章を取捨選択しながら読む活動が増えてくる。その中でも、調べる学習などを行う際に利用する図鑑や事典などについては、目次や索引を利用することが効果的である。

目次は、本全体で何が書かれているのかを概観することができる。索引は、本に掲載されている事柄や言葉などから検索して読むことができる。そのため、目次や索引を利用すると、必要な本を探したり選んだりする際に役立つ他、自分が必要とする情報が書かれていそうなページに見当を付けて読むことができる。目次や索引のそれぞれの特徴を理解して利用するなど、本や文章全体から必要な情報を得るための効果的な読み方を身に付け、活用できるようにすることが大切である。そのためには、調べる学習などを積み重ねる中で、児童が必要を感じたときなどに適宜指導し、その有効性を実感できるようにすることが大切である。

ここでは、目次や索引を活用して読む際の学習活動の例を次に示す。

「目次や索引を活用して読む」(学習活動の例)

〈目次の活用例〉

「納豆の作り方」を調べられそうな本を見つけたけれど、最初から全部読まないといけないのかな。



全部読まなくても、目次で確認するのはどうかな。書かれていそうなページを見つけてから読むといいよ。

目次の特徴

本のはじめにあることが多く、まとめごとの内容をページの順で端的に示しているため、その本に書かれている内容の大体をつかむことができる。

〈索引の活用例〉

目次を読んできたけれど、「納豆菌」という言葉はどこにも使われていないよ。この本には載っていないのかな。



調べたい内容として「納豆菌」という言葉がはっきりとしているなら索引で探してみるといいよ。

索引の特徴

本の後ろの方にあることが多く、掲載されている事柄や言葉などが50音順で示されているため、必要な内容を容易に探し出すことができる。

目次と索引の指導について

調べる学習などを行う際、児童の状況は様々である。目次や索引の特徴を知り、自分の目的や状況に応じて使い分けていく中で、効果的な活用方法を身に付け、有効性を実感できるようにすることが大切である。

※出典等

【資料】は、小清水正美編『つくってあそぼう [33] 梅干しの絵本』(2009年6月 農山漁村文化協会)、七尾純『食の総合学習2 食の科学 食べ物の知恵をさぐる』(2008年5月 あかね書房)、こどもくらぶ編『和の食文化 長く伝えよう! 世界に広めよう! ②食べ物を保存するというこ』(2015年2月 岩崎書店)などを参考にした。

岸さんは、町の広報誌に取り上げられていた量職人の大谷さんを、学級の友達に紹介するために、大谷さんにインタビューをすることにしました。次は、「広報誌の記事」、「直接聞いてみたいこと」、「インタビューの様子」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

「広報誌の記事」

わが町の達人 ～第25回～
「部屋の床に
畳をびたりとおさめる量職人」



大谷さんの仕上げた畳

店主の大谷進さんは、十八歳のころに地元で畳店を営む親方のもとへ弟子入りし、三十歳で自分の店をもった。代々受け継がれてきた畳作りの伝統の技を五十年間守り続けている。
部屋の床にすき間も段差もなくびたりとおさめる畳を作らせたなら、大谷さんの右に出る者がいない。通常、部屋に畳をおさめるときにはわずかな段差などが出るため、その場で調整することが多い。しかし、大谷さんの手にかかれば、そのような調整を一切せずにびたりとおさめることができる。

「私にとっけて、畳はとても魅力的なものです。だからこそ、五十年間も職人を続けることができたのです」と大谷さんは話す。

「直接聞いてみたいこと」

・大谷さんはどのような思いや考えをもって、たたみ職人を五十年間続けてきたのだろうか。

・大谷さんが話しているたたみのありようとは何だろうか。

「インタビューの様子」

岸さん 大谷さんが達人として紹介されている、町の広報誌の記事を読みました。今日は、大谷さんの仕事への思いや考えなどをお聞きしたいと思います。よろしくお願ひします。

大谷さん こちらこそ、よろしくお願ひします。

岸さん では、早速ですが、広報誌で大谷さんは、「私にとっけて、畳はとてもみりよくてきなものですよ」とおっしゃっていましたよね。どのようなところにみりよくがあると思われませんか。

大谷さん 私の店の畳について言えば、全て一点物だということです。私は、機械を使わずに、細部までくふうして一枚ずつ手作業で仕上げています。ですから、完成した畳は同じように見えても、それぞれに個性があるのです。そこが私にとっけての一番のみりよくですかね。

岸さん そうなのですね。それはつまり、

ア

大谷さん そうです。部屋の大きさに合わせたり、お客様の希望や要望に応えたりするのは、職人としての腕の見せどころですからね。

岸さん 職人としての腕をみがぐために、どのようなことを親方から教わったのですか。

大谷さん 親方から直接教わったことはほとんどありません。

岸さん では、どのようにして腕をみがいたのですか。

大谷さん 畳を作る技術やお客様への接し方は、とにかく親方の仕事ぶりをよく見ていました。

岸さん 大谷さんは、親方の姿をよく見て技術や接し方を身につけたのですか。

大谷さん いやいや、見るだけでは身につけられません。「習うより慣れよ」ということわざにもあるとおり、実際に自分でやってみることを何度もくり返すのです。私はとても不器用なので大変さはありましたが、何とか親方のようになりたいと思ひながら、修業をしていました。

岸さん そのような思いをもっていたのですか。大谷さんは、他に、どのような思いや考えをもって、五十年間仕事を続けてきたのですか。

大谷さん 思いや考えですか。なかなか難しい質問ですね。

岸さん すみません。では、五十年間仕事を続けてきた中で大切にできたことや心構えはありますか。

大谷さん そうですね。五十年も職人をしていいますが、いまだに完ぺきだと思える仕上げはありません。だからこそ、自分が一人前になったと思わず、次こそはもっとよいものを作ろうと挑戦し続けるのです。これが、ずっと大切にしてきたことですかね。

岸さん お話を聞いて、大谷さんの仕事への思いや考えが分かりました。特に、

イ

またぜひお話を聞かせてください。今日は本当にありがとうございました。

出題の趣旨

必要な情報を得るために、話し手の意図を捉えながら聞いたり、自分の考えをまとめたりすることができるかどうかをみる。

本問は、平成28年度【小学校】国語B¹のスーパーマーケットの店長へインタビューをする場面の二（正答率51.2%）「質問の意図を捉えること」、三（正答率50.6%）「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問すること」に課題が見られたことを踏まえて出題した。本問の設問二「目的に応じて、質問を工夫すること」では、正答率が67.6%であったことから、依然として課題があると考えられる。

必要な情報を得るために、インタビューをすることが考えられる。インタビューをするとは、目的をもって特定の相手に質問し、必要な情報を聞き出すことである。その際、自分の目的に応じて誰からどのようなことを聞くのかを明確にすることが大切である。また、相手の話の内容を十分聞き取るためには、話し手の意図を捉えながら聞いたり、自分の意見と比べながら聞いたりすることが重要である。

本問では、地域で活躍する人物を紹介するために、インタビューをして情報を得る場面を設定した。岸さんは、広報誌に取り上げられていた畳職人の仕事への思いや考えを知るために、インタビューをして自分の考えをまとめている。ここでは、話の展開を踏まえ、話し手の意図も考慮して質問を工夫することが求められる。また、ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることが求められる。

設問一

趣旨

話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 A 話すこと・聞くこと

エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
3	—	1	1 と解答しているもの	7.3	◎
		2	2 と解答しているもの	3.1	
		3	3 と解答しているもの	4.7	
		4	4 と解答しているもの	81.4	
		99	上記以外の解答	0.1	
		0	無解答	3.4	

2. 分析結果と課題

- 解答類型1と、解答類型2の反応率の合計は10.4%である。これらは、【インタビューの様子】の ア の直前の大谷さんの発言から、「全て一点物だ」、「完成した畳は同じように見えても、それぞれに個性がある」ということが大谷さんにとっての畳の魅力であるということ捉えることができなかつたと考えられる。

- 解答類型3は、【インタビューの様子】の大谷さんの発言を受け、岸さんの「自分の理解が正しいかどうかを確認」という質問の意図を捉えることができなかったと考えられる。この中には、岸さんの「それはつまり」という発言に着目し、「全て一点物だ」という大谷さんにとっての畳の魅力についての話題が続いているという話の展開を捉えることができなかった児童もいたと考えられる。

設問二

趣旨

目的に応じて、質問を工夫することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 A 話すこと・聞くこと

エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型		反応率 (%)	正答	
③	二	1	1 と解答しているもの	11.9	◎
		2	2 と解答しているもの	11.7	
		3	3 と解答しているもの	67.6	
		4	4 と解答しているもの	4.5	
		99	上記以外の解答	0.1	
		0	無解答	4.2	

2. 分析結果と課題

- 平成28年度【小学校】国語B①二（正答率51.2%）では、「質問の意図を捉えること」、③（正答率50.6%）では、「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問すること」に課題があると指摘している。本設問では、正答率が67.6%であったことから、依然として課題があると考えられる。
- 解答類型1と、解答類型2の反応率の合計は23.6%である。これらは、岸さんの「他に、どのような思いや考えをもって、五十年間仕事を続けてきたのですか」という質問に答えることが難しいと感じている大谷さんの状況を捉えることができなかったと考えられる。特に、解答類型1は、岸さんの「思いや考え」という言葉を繰り返した大谷さんの発言に着目したと考えられる。

3. 学習指導に当たって

話の展開に沿って、目的に応じた質問をする

(対応設問：設問一・二)

○ 情報を集めるためにインタビューをするとは、目的をもって特定の相手に質問し、必要な情報を聞き出すことである。その際、話の目的は何か、相手が自分に対して伝えたいことは何かなどの話の内容や話し手の意図を踏まえて十分に聞き取るとともに、インタビューをする自分はどうのような情報を求めているのか、聞いた内容をどのように活用しようとしているのかなどを明確にして聞くことが重要である。そのためには、あらかじめ用意した質問を予定した順序で聞くだけでなく、話の展開に沿って、目的に応じた質問をすることが必要である。

設問一では、相手の話に対して、自分の理解が正しいかどうかを確認する意図で質問をしている。本問のように「それはつまり、～ということでしょうか」など、話し手の言葉を自分の言葉で言い換えて確認する場合の他、「～とはどういうことでしょうか」、「～について、もう一度説明をお願いします」など、よく理解できなかった箇所について聞き直す場合もある。他にも、質問には、設問二の選択肢にあるとおり、以下のようなものがある。

〈話の展開に沿った質問の例〉

	質問の意図	質問の仕方
話の内容を確認する	分からない言葉の意味を確認する (設問二の選択肢4)	・ 自分が分からなかった言葉を具体的に挙げて質問をする。 「〇〇とは、どういうことですか。」
	自分の理解が正しいかどうかを確認する	・ 自分の理解したことを伝え、正しいかどうかを質問をする。 「それは〇〇ということでしょうか。」
相手から考えを引き出す	相手の思いをさらに引き出す (設問二の選択肢1)	・ 相手が繰り返した言葉を用いて質問をする。 「〇〇について、他にはどのようなことがありますか。」 「他にも〇〇なことはありますか。」
	相手に質問をする理由を理解してもらう (設問二の選択肢2)	・ インタビューの目的を伝えてから質問をする。 「〇〇について知りたいのですが、～ですか。」 「〇〇の大切さを全校に広めたいのですが、～ですか。」
	相手が答えやすいようにする (設問二の選択肢3)	・ 別の言葉に言い換えて質問をし直す。 「では、〇〇(言い換えた言葉)については、いかがですか。」 ・ 具体例を挙げながら質問をし直す。 「例えば、〇〇(具体例)のようなことはありますか。」

これらのような質問をすることができるようにするためには、「質問の仕方」を技能として学ぶだけでなく、「何のために、どのような情報を聞き出したいのか」といった目的を明確にしてインタビューに臨むことが重要である。児童の「知りたい」という思いを大切にすることで、主体的に自分の理解を相手に確認したり、相手の思いを引き出したりしようとする事が期待できる。

設問三

趣旨

話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 A 話すこと・聞くこと

エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
③	三 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 大谷さんの仕事への思いや考えについて、【インタビューの様子】の大谷さんの発言から、言葉や文を取り上げて書いている。 ② インタビューとしてふさわしい言葉遣いで書いている。 ③ 書き出しの言葉に続けて、30字以上、60字以内で書いている。 (正答例) ・ 「特に、」以下、この書き出しの言葉は省略する。)自分が一人前になったと思わず、次こそはもっとよいものを作ろうと、ちょう戦し続けているところが心に残りました。(57字) ・ 実際に自分でやってみることを何度もくり返し、何とか親方のようになろうと修業をしていたところが印象に残りました。(58字)		
	1 条件①、②、③を満たしているもの	68.3	◎
	2 条件①、②は満たしているが、条件③は満たしていないもの	0.2	
	3 条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	7.3	
	4 条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	5.6	
	99 上記以外の解答	4.4	
	0 無解答	14.1	

2. 分析結果と課題

○ 解答類型1の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例①)

- ・ 「特に、」以下、この書き出しの言葉は省略する。)五十年も職人を続けていても、自分が一人前になったと思わずにもっとよいものを作ろうというところがすごいと思いました。(60字)

このように解答した児童は、岸さんの【直接聞いてみたいこと】である「大谷さんはどのような思いや考えをもって、たたみ職人を五十年間続けてきたのだろうか」という問いからインタビューの目的を捉え、この目的に即した大谷さんの発言を捉えて解答することができたと考えられる。解答類型1の半数以上が、この発言に着目して書いている。

(例②)

- ・ 全て一点物で、機械を使わずに細部までくふうして一まいずつ手作業で仕上げていることが心に残りました。(52字)

このように解答した児童は、岸さんの【直接聞いてみたいこと】である「大谷さんが話しているたたみのみりょくとは何だろうか」という問いからインタビューの目的を捉え、この目的に即した大谷さんの発言を捉えて解答することができたと考えられる。

- 解答類型3の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ いまだに完ぺきだと思えるものはないけれど、次こそはもっとよいものを作ってお客様に喜んでもらえるようにしている。(58字)

このように解答した児童は、大谷さんの仕事への思いや考えについて【インタビューの様子】の大谷さんの発言から、言葉や文を取り上げて書くことはできている。しかし、インタビューとしてふさわしい言葉遣いで書くことができていない。

3. 学習指導に当たって

目的を明確にして情報を関係付けながら聞き、自分の考えをまとめる

- インタビューにおいて自分の考えをまとめるとは、相手が話した内容と自分の経験や考えとを比較して共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、考えをまとめることである。本問では、インタビューの最後に特に心に残ったこととして自分の考えをまとめ、相手に伝えている。実際の学習では、インタビューの後に聞き出した情報を整理し、自分の考えとしてまとめることも多い。

自分の考えをまとめるためには、相手からどのような情報を聞き出し、その情報をどのように活用するのかのように、インタビューの目的を明確にもって聞くことが重要である。目的に応じて、一番聞きたかったことを中心に自分の考えをまとめていくことができるようにするのである。

また、話し言葉には、発せられた途端に消えていくという特質や、聞き手や場面の状況の影響を強く受けやすいという特質がある。こうした特質を踏まえた上で、情報を関係付けながら聞くことも重要である。すなわち、相手の話を一律に一度で聞き取ろうとするのではなく、自分も持っている情報と関係付けて、分からないことを問い返したり、相手の話につなげてさらに詳しく問うたりするということである。

そのための学習指導に当たっては、児童がインタビューに必然性を感じることができる話題の設定や、インタビューの成果を生かす場の設定をすることが必要である。また、インタビューの前に、自分の考えをもったり、自分も持っている情報と知りたい情報とを整理したりする活動も有効である。さらに、インタビューの成果を基に児童自身が身に付いたことを自覚できるような振り返りを行うことも大切である。

インタビューは、集めた情報について話したり文章にまとめたりして発信することを前提として行われることが多い。目的を明確にして情報を関係付けながら聞き、自分の考えをまとめることは、他教科等の学習や日常生活にも生かされるものである。

ここでは、本問において、目的を明確にもってインタビューを行い、自分の考えをまとめる学習活動の例を次に示す。なお、設問三に関する、インタビューをする学習の指導事例については、平成31年度（令和元年度）【小学校】授業アイデア例で示す。

「目的を明確にもってインタビューを行い、自分の考えをまとめる」(学習活動の例)

〈インタビューの目的： 畳職人の大谷さんを学級の友達に紹介する〉

○ インタビュー前に自分の考えをもつ

50年間も畳職人を続けてきた大谷さんには、仕事に対する心構えや畳への特別な思いがあるだろう。



○ 聞き出したいことを具体化して目的を明確にする

- ① 大谷さんが考える畳の魅力を知りたい。
- ② 大谷さんが畳職人を50年も続けてきた思いや考えを知りたい。



○ 話の展開に沿って目的に応じた質問をしながら聞き出す

大谷さんにとって畳の魅力は、一枚も同じものはないということなんだな。

他に、どのような思いや考えをもって、50年間仕事を続けてきたのですか。



親方のようになりたいと思いながら、修業をしてきたなんてすごいな。その他にどんな思いや考えをもって50年間も仕事を続けてきたのだろう。



思いや考えですか。なかなか難しい質問ですね。

すみません。では、50年間仕事を続けてきた中で大切にしてきたことや心構えはありますか。



「大切にしてきたことや心構え」と質問をすれば、思いや考えを聞き出せるかな。



そうですね。50年も職人をしてますが、いまだに完璧だと思える仕上がりはありません。だからこそ、自分が一人前になったと思わず、次こそはもっとよいものを作ろうと挑戦し続けるのです。これが、ずっと大切にしてきたことですかね。

○ 聞き出したいこと(①, ②)の内容を中心に自分の考えをまとめる

大谷さんにとっての畳の魅力は、全て一点物だということだった。細部まで丁寧に作るので一枚も同じものはないなんて本当にすごいな。

その上、自分が一人前になったと思わず、50年も仕事を続けているなんて、その情熱は想像以上だ。一つのことに情熱を傾ける生き方はかっこいいな。



設問四

趣旨

ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第3学年及び第4学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1) ア 伝統的な言語文化に関する事項

(イ) 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
③	四	1	1 と解答しているもの	73.1	◎
		2	2 と解答しているもの	5.4	
		3	3 と解答しているもの	6.1	
		4	4 と解答しているもの	7.4	
		99	上記以外の解答	0.1	
		0	無解答	7.9	

2. 分析結果と課題

- 解答類型2～4の反応率の合計は18.9%である。これらは、【インタビューの様子】の大谷さんの「習うより慣れよ」という発言の内容と【ノートの一部】の中の「(意味)」とを関係付けて捉え、文の中で適切に用いることができなかつたと考えられる。この中には、【ノートの一部】に書かれている「習うより慣れよ」の「慣れよ」と、選択肢2の「住み慣れれば」や選択肢3の「なじむ」、選択肢4の「気長に結果を待とう」とを結び付けて捉えた児童もいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

日常生活で使うことができるように、ことわざや慣用句の意味や使い方を正しく理解する

- ことわざや慣用句の意味や使い方を正しく理解し、日常生活における表現の中で使うことができるようにすることは、児童の語彙を増やし、表現を豊かにする上で大切である。そのためには、普段の学習や生活の場面で見付けたことわざや慣用句について辞典などで意味や使い方を確認し、ノートやカードなどに記録するとともに、実感をもって捉えたり使ったりできるようにすることが重要である。

ここでは、ことわざを用いる機会を意図的に設定したり、児童がことわざを使うことの効果などについて気付いたりする学習活動等の例を次に示す。

「ことわざを実感をもって捉えたり使ったりする」(学習活動の例)

- 国語の授業で自分の考えをことわざを用いて話す機会を設ける



イメージにぴったりのことわざを用いて表現してみましょう。

伊能忠敬の伝記を読んで、日本で初めて精巧な地図を作成するという偉業を成し遂げるために、ひたすら現地を歩いて調査する姿から学んだことがあります。それは、何か大きなことを成し遂げるためには、小さなことの積み重ねが大切だということです。……



伊能忠敬の伝記を読んで、日本で初めて精巧な地図を作成するという偉業を成し遂げるために、ひたすら現地を歩いて調査する姿から学んだことがあります。それは、何か大きなことを成し遂げるためには、小さなことの積み重ねが大切、つまり千里の道も一歩からだということです。……

この文章には、優しい言葉があふれていて、書き手の温かい人柄を感じることができます。

この文章は、読むと優しい気持ちになります。文は人なりというように、温かい人柄が表れていると思います。



- ことわざを用いてスピーチをする機会を設ける



今週は、「猫」、「馬」、「鶴」など、動物が出てくることわざを用いて話してみましょう。



この前、親戚のおじさんのお家に家族で遊びに行きました。人見知りをする妹は、いつもならたくさん話すのに、親戚のおじさんの前では、借りてきた猫みたいに大人しかったです。

スピーチは、全体の前で行うだけでなく、班やペアで行うことも考えられる。

- 日常生活の中で児童の言葉を取り上げ、児童がことわざや慣用句を使うことの効果に気付いたり、実感したりすることができるようにする



先日、友達だと思って声をかけたら、知らない人だったので、**穴があったら入りたい**くらい恥ずかしかったです。

私も、知らない人に挨拶をしてしまい、**顔から火が出る**ほど恥ずかしい思いをした経験があります。
ことわざや慣用句を使うとそのときの様子や状況がよく伝わりますね。



また試合でシュートを外してしまいました。**二度あることは三度ある**というから、また、外しそうな感じがします。すっかり自信がなくなってしまいました。

今回は惜しかったですが、**三度目の正直**とも言うので、次はきっと大丈夫ですよ。応援しています。
ことわざや慣用句に表れているものの見方や考え方は、気持ちのもちかたの参考になりますね。



- 朝の会などで、教師が意図的にことわざを用いて話す



明日から長い休みですね。長い休みは、生活が乱れがちですが、**早起きは三文の徳**と言います。規則正しい生活を心がけましょう。

※出典等

箕田理香編『調べてみよう！ 日本の職人 伝統のワザ ④「住」の職人』(2011年2月 学研教育出版),
ヴィットインターナショナル企画室編『知りたい！なりたい！職業ガイド 家づくりにかかわる仕事』
(2010年2月 ほるぷ出版), 笠井一子『京の大工棟梁と七人の職人衆』(1999年6月 草思社)などを参考にした。

